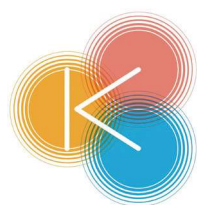


令和4年度

# 診療のご案内

地方独立行政法人 北九州市立病院機構  
北九州市立八幡病院



Kitakyushu City Yahata Hospital

---

# 北九州市立八幡病院

---

## 基本理念

私たちは、24時間質の高い医療を提供し、  
皆様に、安心、信頼、満足して頂ける病院を目指します。

## 基本方針

1. 医療の安全に万全を期し、科学的根拠に基づく、質の高い医療を提供します。
2. 患者さんの生命の尊厳とプライバシーを守り、患者さん中心の医療を行います。
3. 保健・福祉・医療機関と連携し、地域社会への積極的な医療貢献を果たします。
4. 教育・研鑽に努め、専門的な知識、熟練した技能をもって、信頼と責任ある医療を提供します。
5. 公共性、経済性を考慮した健全経営に努めます。



# 患者の権利と義務

## ■ 患者の権利

1. 人格、価値観等が尊重され、良質な医療を公平に受けることができます。
2. 病気、検査、治療等について、理解しやすい言葉や方法で、十分な説明と情報提供を受けることができます。
3. 検査・治療等について自らの意思で選択、同意、拒否することができます。
4. 現在の検査・治療等について、他の医師の意見(セカンドオピニオン)を求めることができます。
5. プライバシーは守られ、医療上の個人情報保護され、自分の診療記録の開示を求めることができます。

## ■ 患者の義務

1. 良質で安全な医療を実現するために、ご自身の健康に関する情報を正確に提供してください。
2. 十分な理解と納得の上で、ご自身の治療に積極的に協力してください。
3. 他の患者さんの診療、治療に支障をきたさないように、院内規則や社会規律を守ってください。

## CONTENTS

### ご 挨 拶 ..... 3

#### 診療案内

|                 |    |
|-----------------|----|
| 一般外科            | 7  |
| 消化器外科           | 8  |
| 呼吸器外科           | 9  |
| 小児外科            | 10 |
| 乳腺外科            | 11 |
| 脳神経外科           | 12 |
| 整形外科・リハビリテーション科 | 13 |
| 形成外科            | 14 |
| 内科              | 16 |
| 循環器内科           | 18 |
| 小児総合医療センター(小児科) | 19 |
| 小児血液・腫瘍内科       | 22 |
| 小児神経内科          | 23 |
| 泌尿器科            | 24 |
| 皮膚科             | 25 |
| 精神科             | 26 |
| 眼科              | 27 |
| 婦人科             | 28 |
| 耳鼻咽喉科           | 29 |
| 麻酔科             | 30 |
| 放射線科            | 31 |
| 救急科             | 32 |
| 臨床検査科           | 33 |
| 歯科              | 34 |

### ■ 専門医・資格認定等一覧 ..... 36

#### 院内センター

|             |    |
|-------------|----|
| 救命救急センター    | 45 |
| 小児救急センター    | 46 |
| 消化器・肝臓病センター | 47 |
| 災害外傷外科センター  | 48 |

#### 診療支援部

|              |    |
|--------------|----|
| 薬剤課          | 50 |
| 臨床検査技術課      | 51 |
| 放射線技術課       | 52 |
| リハビリテーション技術課 | 53 |
| 栄養管理課        | 54 |
| 臨床工学課        | 55 |

### ■ 看護部 ..... 57

### ■ 地域医療連携室 ..... 60

#### 病院概要・フロアー図

|       |    |
|-------|----|
| 病院概要  | 64 |
| フロアー図 | 65 |



# 院長挨拶



院長  
岡本 好司

2022年4月1日付けをもちまして北九州市立八幡病院病院長に就任いたしました岡本好司と申します。私は、平成23年に消化器外科、特に肝胆膵外科医として産業医科大学から当病院に赴任し、11年目になります。元院長の故市川光太郎先生、前院長の伊藤重彦先生から、当院にお誘いを受け、赴任したのがついこの間のように感じられます。

本院は、昭和5年に開設され、昭和18年に総合病院となりました。設立92年になる伝統ある病院です。昭和53年には北九州市内で2施設しかないうちの1つの救命救急センターが併設され、平成15年には小児救急センターが併設されています。平成30年12月に今の新病院となり、平成31年4月から地方独立行政法人北九州市立病院機構北九州市立八幡病院となりました。

成り立ちからわかりますように、北九州市民のための公立病院です。したがって、地域に根差した地域医療に邁進していくことこそが、当院の使命であります。24時間365日、軽症重症問わず、老若男女すべからく受診を希望されれば、診療を行なうことが求められており、最大限の応需を行うべく日々オール八幡で対処していかなければならないと考えています。

新型コロナウイルスの影響により、この2年間は本当に大変な状態でした。当院は、感染症指定病院以外の医療機関では北九州市内で最初に新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ病棟を設置し、500名弱の入院患者を受け入れてきました。呼吸器内科を中心とした医療チーム、スタッフの努力の賜物です。

また、外科系を中心とした救命救急センター、北九州市内で最大の規模を誇る救急を含めた総合的な小児医療も粛々と行って参りました。まだまだ、この状態は継続する可能性もあり予断は許しませんが、少しでも多くの困っている患者さんを元気に社会へ送り出せるように頑張ってお参りたいと考えております。

病院を取り巻く厳しい状況を鑑みますと、益々一層の八幡病院一丸となった頑張りが必要であると思われれます。初心忘れることなく、進む道を揺るぐことなく、社会に貢献できる、そして市民に信頼される病院を目指し、努力していきます。

今後とも、温かく、そして末永いご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



## 幹部紹介



副院長  
小児総合医療センター長  
小児神経内科主任部長

あまもと まさの  
天本 正乃



副院長  
医療情報管理室長  
診療支援部長

おかべ さとし  
岡部 聡



統括部長  
医療安全管理室長  
形成外科主任部長

たさき ゆきひろ  
田崎 幸博



統括部長  
救命救急センター長  
地域医療連携室長

きどがわ ひでお  
木戸川 秀生



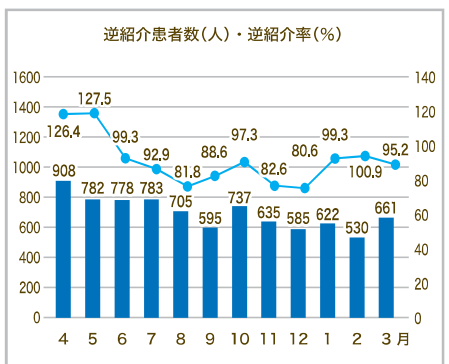
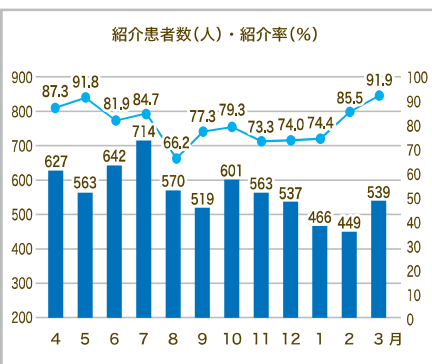
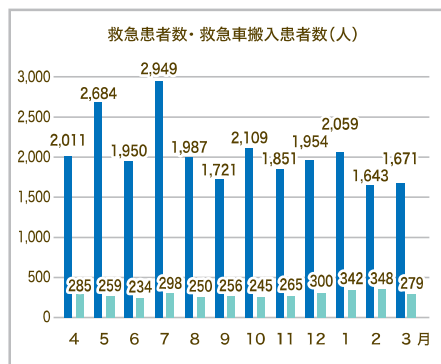
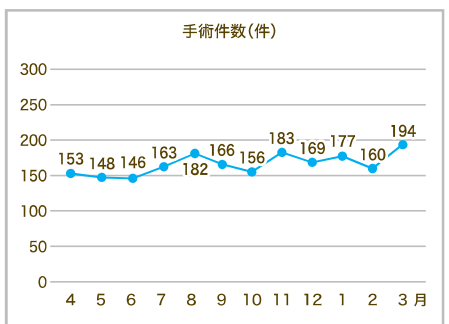
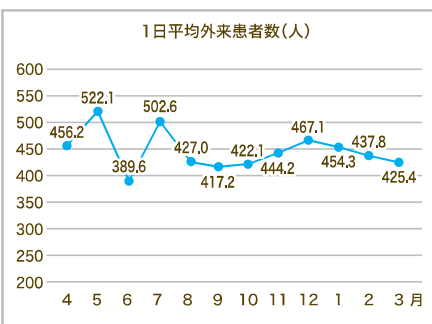
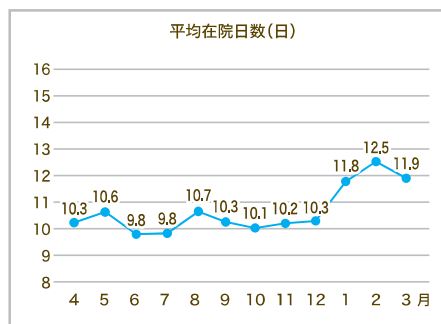
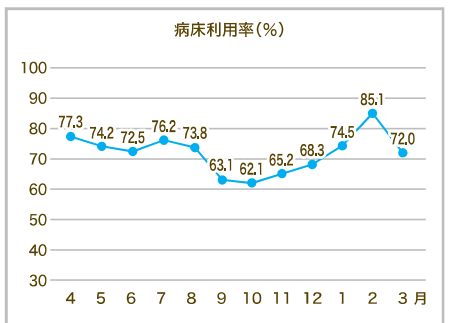
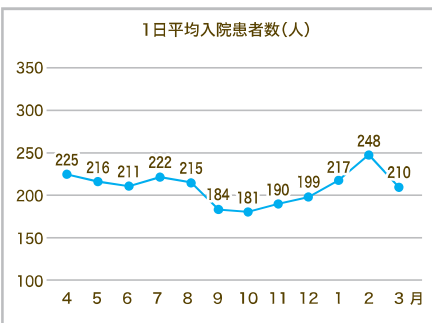
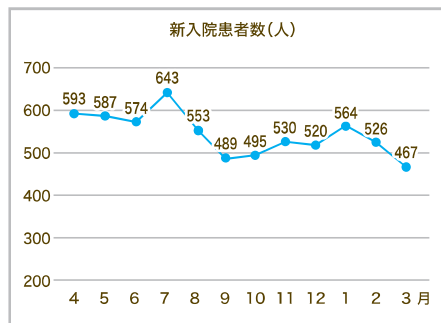
看護部長  
よしくに さわこ  
吉國 佐和子



事務局長  
せとぐち まこと  
瀬戸口 誠

# 令和3年度 病院実績

|               | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 1月    | 2月    | 3月    |
|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 新入院患者数(人)     | 593   | 587   | 574   | 643   | 553   | 489   | 495   | 530   | 520   | 564   | 526   | 467   |
| 1日平均入院患者数(人)  | 225   | 216   | 211   | 222   | 215   | 184   | 181   | 190   | 199   | 217   | 248   | 210   |
| 病床利用率(%)      | 77.3  | 74.2  | 72.5  | 76.2  | 73.8  | 63.1  | 62.1  | 65.2  | 68.3  | 74.5  | 85.1  | 72.0  |
| 平均在院日数(日)     | 10.3  | 10.6  | 9.8   | 9.8   | 10.7  | 10.3  | 10.1  | 10.2  | 10.3  | 11.8  | 12.5  | 11.9  |
| 1日平均外来患者数(人)  | 456.2 | 522.1 | 389.6 | 502.6 | 427.0 | 417.2 | 422.1 | 444.2 | 467.1 | 454.3 | 437.8 | 425.4 |
| 手術件数(件)       | 153   | 148   | 146   | 163   | 182   | 166   | 156   | 183   | 169   | 177   | 160   | 194   |
| 救急患者数(人)      | 2,011 | 2,684 | 1,950 | 2,949 | 1,987 | 1,721 | 2,109 | 1,851 | 1,954 | 2,059 | 1,643 | 1,671 |
| うち救急車搬入患者数(人) | 285   | 259   | 234   | 298   | 250   | 256   | 245   | 265   | 300   | 342   | 348   | 279   |
| 紹介患者数(人)      | 627   | 563   | 642   | 714   | 570   | 519   | 601   | 563   | 537   | 466   | 449   | 539   |
| 紹介率(%)        | 87.3  | 91.8  | 81.9  | 84.7  | 66.2  | 77.3  | 79.3  | 73.3  | 74.0  | 74.4  | 85.5  | 91.9  |
| 逆紹介患者数(人)     | 908   | 782   | 778   | 783   | 705   | 595   | 737   | 635   | 585   | 622   | 530   | 661   |
| 逆紹介率(%)       | 126.4 | 127.5 | 99.3  | 92.9  | 81.8  | 88.6  | 97.3  | 82.6  | 80.6  | 99.3  | 100.9 | 95.2  |



## 診療科



# 一般外科

## 診療科の紹介

外科全体の本年度スタッフは、岡本好司院長、木戸川秀生統括部長、井上征雄呼吸器外科主任部長、新山新小児外科主任部長、山吉隆友外科主任部長、野口純也消化器外科主任部長、上原智仁部長、又吉信貴部長、沖本隆司部長、大坪一浩部長、金野剛医師で構成しております。4月より沖本、金野の2名が新たに赴任し、日々の診療を行なうこととなりました。

## 診療科の特徴

一般外科的疾患に加え、悪性疾患に対しては診断から治療、術後治療として抗癌剤を用いた化学療法なども胸腹部を問わず積極的に行なっており、日本外科学会、消化器外科学会、呼吸器外科学会、小児外科学会の専門施設としての維持に加え、がん治療認定医機構における認定研修施設として認可されております。また、様々な救急・外傷疾患にも対応しており、外傷専門医研修認定施設、腹部救急医学会認定施設としても機能しております。消化器疾患では上部・下部の診断的内視鏡検査、消化管出血や腫瘍性狭窄に対する緊急内視鏡治療、肝胆道系緊急疾患に対するERCPなど消化器内視鏡学会専門施設としての幅広い治療も行っています。また、一般的な術後経過や敗血症、感染疾患に対しても厳格な術後管理を徹底しており、外科周術期感染管理教育施設としても認定され、日々の総合的研鑽による診療能力向上により皆様のお役に立てるよう日夜努力しております。

## 取り扱う主な対象疾患

消化器外科、肝胆膵外科、呼吸器外科、小児外科などの様々な領域に対し、良性疾患などの一般外科に加え悪性疾患に対する集学的治療はもちろんのこと、外傷や胸腹部緊急疾患に対する救急外科についても対処しております。診断、治療を含む上下部消化器内視鏡・ERCPやEUS等、他の施設ではみられない幅広い分野にわたる研鑽を行っていることが当科の大きな特徴であり、診療の基盤であります。

## 診療実績

| 診療科         | 主な臓器          | 主な疾患       | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 |
|-------------|---------------|------------|------|------|------|------|------|
| 消化器<br>外科   | 食道・胃・<br>十二指腸 | 食道疾患       | 0    | 0    | 1    | 0    | 0    |
|             |               | 潰瘍穿孔       | 0    | 2    | 0    | 5    | 1    |
|             |               | 胃癌・腫瘍性疾患   | 16   | 11   | 8    | 11   | 14   |
|             |               | その他        | 4    | 2    | 2    | 1    | 1    |
|             | 小腸・大腸・<br>肛門  | 大腸癌・腫瘍性疾患  | 41   | 52   | 31   | 35   | 46   |
|             |               | イレウス       | 14   | 4    | 10   | 4    | 11   |
|             |               | 小腸・大腸穿孔    | 1    | 3    | 7    | 13   | 7    |
|             |               | 急性虫垂炎      | 37   | 29   | 33   | 20   | 38   |
|             |               | 痔核・痔瘻・肛門疾患 | 9    | 13   | 11   | 7    | 15   |
|             |               | その他        | 5    | 2    | 10   | 2    | 5    |
|             | 肝・胆・膵         | 胆石・総胆管結石   | 48   | 45   | 61   | 46   | 53   |
|             |               | 肝癌・胆道癌・膵癌  | 34   | 29   | 27   | 19   | 34   |
|             |               | 急性膵炎・その他   | 0    | 2    | 5    | 4    | 1    |
|             | 腹壁疾患          | 各種ヘルニア     | 38   | 30   | 55   | 39   | 40   |
|             | 腹部外傷          |            | 1    | 1    | 4    | 2    | 3    |
|             | その他           |            | 17   | 7    | 37   | 25   | 7    |
| 呼吸器<br>外科   | 肺・縦隔          | 肺癌         | 8    | 6    | 6    | 5    | 3    |
|             |               | 気胸・嚢胞性肺疾患  | 6    | 7    | 2    | 4    | 1    |
|             |               | 膿胸・縦隔疾患    | 1    | 2    | 2    | 0    | 0    |
|             |               | 多汗症        | 1    | 2    | 2    | 4    | 0    |
|             |               | その他        | 1    | 0    | 0    | 0    | 2    |
|             | 内分泌           | 乳癌・甲状腺癌    | 6    | 3    | 6    | 3    | 5    |
|             | 胸部外傷          |            | 0    | 0    | 0    | 0    | 1    |
|             | その他           |            | 11   | 9    | 17   | 5    | 2    |
| 14歳以下<br>小児 |               | ヘルニア       | 30   | 32   | 24   | 22   | 32   |
|             |               | 急性虫垂炎      | 62   | 64   | 50   | 49   | 57   |
|             |               | 新生児・外傷・その他 | 27   | 35   | 27   | 18   | 22   |
| 計           |               |            | 418  | 392  | 438  | 343  | 401  |
| 消化器外科       | 腹腔鏡下手術        |            | 243  | 220  | 264  | 207  | 249  |
| 呼吸器外科       | 胸腔鏡下手術        |            | 14   | 19   | 12   | 14   | 3    |
| 計           |               |            | 257  | 239  | 276  | 221  | 252  |
| 緊急手術        |               |            | 138  | 132  | 100  | 110  | 134  |
| 消化器外科       |               |            | 265  | 232  | 302  | 233  | 276  |
| 呼吸器外科       |               |            | 34   | 29   | 35   | 21   | 14   |
| 小児外科        |               |            | 119  | 131  | 101  | 89   | 111  |

## スタッフ紹介



院長  
消化器・肝臓病名誉センター長  
おかもと こうじ  
岡本 好司



統括部長  
救命救急センター長  
きどがわ ひでお  
木戸川 秀生



外科主任部長  
やまよし たかとも  
山吉 隆友



呼吸器外科主任部長  
救急科主任部長  
いのうえ まさお  
井上 征雄



小児外科主任部長  
しんやま しん  
新山 新



消化器外科主任部長  
消化器・肝臓病センター長  
のぐち じゅんや  
野口 純也



外科部長  
うへはら としひと  
上原 智仁



外科部長  
またよし のぶたか  
又吉 信貴



外科部長  
おきもと たかし  
沖本 隆司



外科部長  
おおつぼ かずひろ  
大坪 一浩



外科  
こんの たけし  
金野 剛



参与  
いとう しげひこ  
伊藤 重彦

## 診療科の紹介

消化器外科はスタッフ9名で診療を行っております。スタッフには外科学会指導医・専門医、消化器外科学会指導医・専門医、内視鏡外科学会技術認定医、消化器病学会指導医・専門医、消化器内視鏡学会指導医・専門医、肝胆膵外科学会高度技能指導医、肝臓学会指導医・専門医、救急科指導医・専門医、外傷専門医、癌治療教育医・認定医等がそろっています。

## 診療科の特徴

当院は救命救急センターがあるため、急性腹症、腹部外傷等を扱う頻度が高いのが特徴です。麻酔科や手術室の協力のもと、いつでも緊急手術が可能な体制をとっています。また治療に際しては、患者様が思い描く最良の結果を得られるよう、各疾患の診療ガイドラインなども参考にしながら科学的根拠に基づいて手術や治療戦略を立てています。特に悪性疾患の患者様には、不安を取り除くために、病気の程度や手術の内容、あるいは抗癌剤治療の内容や予定など、分かり易く説明を行うことを心掛けています。

新病院では、手術室内に血管造影とCTが同室で出来るハイブリッドオペレーションルームが新設されました。これにより外傷や出血性疾患に対して、より迅速に対応可能となっています。

## 取り扱う主な対象疾患

消化器外科としては胃癌、大腸癌、肝臓癌、胆道癌、膵臓癌等の悪性疾患や胆石症、虫垂炎、鼠径ヘルニア等の良性疾患に対して積極的に手術に取り組んでいます。鏡視下手術も胆嚢摘出のみならず、胃癌、大腸癌を中心に意欲的に取り組んでおり、現在では消化器に関する手術の半数以上を腹腔鏡下に行っています。また、手術適応とならない消化器疾患に対しても当科において柔軟に対応出来る体制に努めています。特に消化器内視鏡学会指導医、専門医のもと、上下部内視鏡検査、胆膵内視鏡検査やそれに関連する処置等も積極的に行っております。

## スタッフ紹介



院長  
消化器・肝臓病名誉センター長  
おかもと こうじ  
岡本 好司



統括部長  
救命救急センター長  
きどがわ ひでお  
木戸川 秀生



消化器外科主任部長  
消化器・肝臓病センター長  
のぐち じゅんや  
野口 純也



外科主任部長  
やまよし たかとも  
山吉 隆友



外科部長  
うえはら としひと  
上原 智仁



外科部長  
またよし のぶたか  
又吉 信貴



外科部長  
おきもと たかし  
沖本 隆司



外科部長  
おおつぼ かずひろ  
大坪 一浩



外科  
こんの たけし  
金野 剛

# 呼吸器外科

## 診療科の紹介

呼吸器外科専攻認定医を中心に、消化器外科医や小児外科医と連携しながら、呼吸器外科、乳腺外科症例の手術を行っています。

## 診療科の特徴

救命救急センターを併設しており、自然気胸や急性膿胸など緊急性を有する疾患が多く、また、胸部外傷など胸腔ドレナージを伴う全身管理も行っています。また、新病院移転に伴い新設されたハイブリッド手術室を使用して、術中触知困難な末梢肺病変に対するナビゲーション手術も近年導入しております。肺がんや縦隔腫瘍に対しても、完全鏡視下手術も積極的に行っています。新病院開院時のマンモグラフィー導入で、乳癌検診症例も増加しています。

## 取り扱う主な対象疾患

重症外傷、胸部外傷、気胸、膿胸などの急性期疾患、肺癌、縦隔腫瘍、乳癌

## スタッフ紹介



呼吸器外科主任部長  
救急科主任部長

いのうえ まさお  
井上 征雄

# 小児外科

## 診療科の概要

当院は小児救急・小児総合医療センターとして、北九州市のみならず近隣の市町村を含めた北九州医療圏の小児医療を担っている施設です。そのため外傷や急性期疾患、虐待など、外科的処置の必要な子ども達が大勢運ばれてきます。小児科医のみならず脳神経外科、形成外科、整形外科、泌尿器科と手を合わせて合同で診療に当たることが必要になります。その中で小児外科は、腹部や胸部の疾患に対応できるように心がけています。

## 取り扱う主な疾患

現在常勤の小児外科医は1人のため、他科の様に“小児外科”独立で診療に当たることは困難であり、小児科医と一緒に診断・診療を行い、成人外科医とグループになって手術を行っているのが現状です。

また、小児外科は2019年12月北九州市立八幡病院が新病院に移転するに当たり、正式に標榜できるようになりました。さらに日本小児外科学会教育関連施設に認定されているため、大学へ手術応援を依頼することで高度先進医療手術を提供できる状況にあると考えています。小児外科を目指したいという若手医師の研鑽の場になれるよう、また研修医が小児外科に少しでも興味を持ってもらえる場になるようにする責務があると思います。

一方、当院が現在産科を休診しているためにNICUが併設されていません。そのためにどうしても新生児疾患に関しては、他の総合病院の小児外科に頼らざるを得ない状況が続いており、今後の課題として捉えていく必要があります。

小児外科は、今後も小児に携わる外科として他科と連携を保ちながら、また教育関連施設として教育にも務めながら安全な診療を心がけていきます。

## 診療科の特徴・取組み

年間約110件前後の全身麻酔手術を行っています。2020年は新型コロナウイルスの感染の影響からか100件を下回りましたが、2021年は142件と例年並みの手術件数でした。小児（16歳未満）急性期疾患として最多は急性虫垂炎であり、平均50件程度で2021年は61件でした。全例腹腔鏡下、しかも単孔での手術で完遂しています。その次に多い疾患は外鼠径ヘルニアで、20件から30件程度手術を行っています。

その他には、化学療法を行うための中心静脈カテーテル挿入術、喉頭気管分離術、気管切開術、胆道拡張症手術、胃瘻造設術などを行っています。

## 小児外科 診療実績

|          | 2021 | 2020 | 2019 | 2018 | 2017 | 2016 | 2015 | 2014 | 2013 | 2012 | 2011 |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 急性虫垂炎    | 61   | 51   | 44   | 70   | 65   | 69   | 64   | 65   | 56   | 49   | 52   |
| 鼠径ヘルニア   | 27   | 21   | 21   | 28   | 28   | 21   | 30   | 48   | 31   | 16   | 28   |
| 内視鏡（鎮静下） | 44   | 50   | 34   | 57   | 44   | 31   | 25   | 7    |      |      |      |
| 手術合計     | 142  | 93   | 117  | 144  | 129  | 115  | 111  | 123  | 104  | 89   | 91   |

## スタッフ紹介



小児外科主任部長

しんやま しん  
新山 新

# 乳腺外科

## 診療科の概要

乳腺外科は常勤医1名と非常勤医師1名の2名体制で診療を行っています。乳腺疾患の診断・治療を幅広く行っており、乳がんと診断された場合は手術療法・薬物療法・放射線療法の組み合わせにより、個々の患者さんに最適の治療を提案いたします。診療には医師のみならず看護師・薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・リハビリテーション技士など複数の職種によるチーム医療体制を整え患者さんが安心して治療を受けていただけるよう努めています。

## 取り扱う主な疾患

乳腺疾患の診断はマンモグラフィと乳房超音波検査が基本となります。マンモグラフィ装置はトモシンセシスという1mm毎の断層撮影が同時に撮れる装置を導入しており、従来の装置では正常乳腺に重なって発見や観察が難しかった病変が診断しやすくなっています。他院で異常を指摘された場合、検診で要精査となった場合など、上記の検査以外にCT・MRIなども含めて当院で精密検査ができますので遠慮せず受診してください。

## 診療科の特徴・取組み

- 乳房に何らかの自覚症状がある(しこり・ひきつれ・分泌物など)
- 他院で乳がん検診を受診し「要精密検査」「要再検査」と判定された



【従来のマンモグラフィ撮影(2D撮影)に加え、最新のトモシンセシス機能(3Dマンモグラフィ)も搭載されています。撮影は女性技師が担当しています。】

## スタッフ紹介



院長  
消化器・肝臓病名誉センター長  
おかもと こうじ  
岡本 好司



呼吸器外科主任部長  
救急科主任部長  
いのうえ まさお  
井上 征雄



(非常勤医師)  
たのうえ たかゆき  
田上 貴之



# 脳神経外科

## 診療科の紹介

当院の脳神経外科は昭和53年という早期に開設し、救命救急センターの要として機能してきました。現在においても、北九州の地域医療の一翼を担うため、脳卒中および頭部外傷救急を中心とした救急診療に24時間体制で取り組んでおります。

脳神経外科の対象疾患は、脳卒中全般（脳梗塞や脳出血、くも膜下出血等）、脳腫瘍、頭部外傷、てんかんや水頭症、顔面痙攣や三叉神経痛等の機能外科、脊椎・脊髄疾患等、多岐に渡ります。当科では医療技術の進歩に対応すべく様々な機器・設備更新を行い、最新の脳神経外科治療全般に対応しており、近年では術中神経モニタリング装置を用いた安全な顕微鏡手術や血管造影とのハイブリッド手術を実現しています。また、カテーテルを使用した血管内治療や、神経内視鏡による低侵襲手術、放射線治療、化学療法等も、関連施設である産業医科大学の脳神経外科および脳卒中血管内科と緊密に連携することで、脳神経疾患全般に対応しています。

現在、常勤医師3名と外来を担当する非常勤医師2名が在籍し診療に当たっております。脳卒中や頭部外傷をはじめとした緊急手術を要する疾患が救急搬送されるため、当院の救命救急センターにおいては、初期対応から診断、治療に至るまで、専門医による診療を実施できる体制を24時間体制で取っております。

## 取り扱う主な対象疾患

### 【脳卒中全般】

24時間体制での迅速な診療（脳梗塞に対する超急性期再開通療法、脳出血・くも膜下出血等出血性脳卒中、頭部外傷の緊急手術）に対応することができます。再開通療法を必要とする症例については、産業医科大学の脳卒中血管内科と連携し、24時間体制で機械的血栓回収療法にも対応しています。

外科治療に関しては、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻、内頸動脈狭窄症に対する頸動脈内膜剥離術や脳梗塞発症の危険性が高い脳動脈狭窄・閉塞症、もやもや病に対する血管バイパス術、くも膜下出血の原因となる脳動脈瘤の手術（破裂および未破裂）を実施しております。

### 【頭部外傷】

救急外来における迅速な診断のもと、必要に応じた緊急穿頭および手術室での開頭手術にも対応しています。頭蓋内圧モニタリング下での集学的脳保護療法を実施し、さらなる機能回復のための急性期リハビリテーションも実施しています。

### 【その他の対象疾患】

脳腫瘍・顔面痙攣・三叉神経痛・てんかん・頭痛・水頭症・慢性硬膜下血腫など、様々な脳神経外科疾患についても全般的に対応しています。

## 診療科の特徴

### 【脳血管外科手術、ハイブリッド手術】

脳卒中の原因となる脳動脈狭窄・閉塞や脳動脈瘤といった病態に対し、脳卒中の発症を未然に予防すべく脳血管バイパス手術や脳動脈瘤クリッピング術などの脳血管の外科治療を実施しています。近年の医療技術の進歩により、脳血管造影検査を手術中に実施することで、より安全に難易度の高い脳血管外科手術を行うことが一部の施設で可能となりました。当院は、その手術（ハイブリッド手術といいます）を実施するためのCT装置、血管造影装置を兼ね備えた手術室を導入し、積極的にこの設備を利用した外科手術を実施しています。

### 【術中神経モニタリング】

患者さんが眠っている全身麻酔下手術において、術中に運動麻痺や感覚障害などの後遺症の発生を予測する事は、以前は困難でした。しかしながら、近年では術中の神経刺激によって生じる脳波や筋電図の変化を経時的に観察することで後遺症を予想する方法が開発され、その実用化が広くすすめられることにより脳神経外科手術はより飛躍的に安全に施行できるようになりました。当院においても、手術による後遺症の発生を未然に防ぐために、術中神経モニタリングを行い、より安全な手術を実施しています。

### 【頭蓋内圧モニタリング】

頭部外傷によって生命の危機に直面する直接原因として、頭蓋内圧の上昇が挙げられます。頭蓋内圧が上昇すると脳の不可逆的なダメージが蓄積し、最終的には致命的となります。頭蓋内圧は頭蓋内にセンサーを留置することにより、リアルタイムに観察することが可能です。当院では、精度の高い頭蓋内圧モニターを有しており、持続的なモニタリングを駆使した正確な病状観察により全身管理と適切な時期での外科手術を実施することが可能です。

## 診療実績（令和3年度下半期実績）

| 手術(術式)          | 件数 |
|-----------------|----|
| 脳動脈瘤クリッピング術     | 6  |
| 頸動脈内膜剥離術        | 2  |
| 脳動脈バイパス術        | 1  |
| 頭蓋内血腫除去術(脳内)    | 5  |
| 頭蓋内血腫除去術(硬膜下・外) | 2  |
| 脳室腹腔シャント術       | 3  |
| 穿頭血腫除去術         | 11 |
| その他             | 8  |

## スタッフ紹介



脳神経外科主任部長

みやおか りょう  
宮岡 亮



脳神経外科部長

みやち ひろし  
宮地 裕士



脳神経外科副部長

のぐち しょうへい  
野口 祥平

# 整形外科・リハビリテーション科

## 診療科の紹介

当院は、救命救急センターを併設していることから、重度外傷が多く、また小児救急・小児総合医療センターも併設していることから、小児の骨折症例が多いことが特徴といえます。このように当院の整形外科は救急医療とともに発展してきました。今後も、当院の使命である救命救急医療、小児救急医療、災害支援医療の一役割を担いながら、市立病院ならではの地域に根ざした、地域住民に貢献出来る医療を目指し診療を行って参ります。

2019年からは新体制となり5名の医師が診療にあたっています。関節外科・手外科・外傷の各分野で専門性の高い医療を提供しております。またリハビリテーション科では、PT10名・OT5名・ST2名で、早期からのリハビリテーションを強化的に行っております。

## 診療科の特徴

### 【関節外科】

関節外科を専門とする医師が、膝および股関節の変形性関節症に対する関節温存手術（寛骨臼回転骨切り術、高位脛骨骨切り術）や人工関節置換術を行っております。人工股関節置換術は、前外側アプローチによる最小侵襲手術（MIS）をバイオクリーンルームで行っています。軽度の変形性膝関節症の場合は、単顆人工関節置換術を行います。また、麻酔科医の協力のもと、術後の痛みをできるだけ減らすよう努めています。

### 【手外科】

日本手外科学会専門医が、橈骨遠位端骨折や手指・手根骨骨折などの手の外傷治療に加え、リウマチ手の機能再建、キーンバック病などの手根骨壊死、母指CM関節症などの変形性関節症、肘部管症候群や手根管症候群などの絞扼性末梢神経障害、腱鞘炎、デュブイットラン拘縮、良性の骨軟部腫瘍など幅広い手術を行います。

## 診療実績

令和3年は、延べ580名の手術を行い、右肩上がり入院患者数、手術件数は増加しております。（手術症例一覧は2021.1.1～2021.12.31の一年間の集計）

| 分野  | 手術(術式)       | 件数 |
|-----|--------------|----|
| 関節  | 人工股関節置換術     | 31 |
|     | 人工骨頭挿入術(肩・股) | 19 |
|     | 寛骨臼移動術       | 40 |
|     | 関節鏡下滑膜切除術    | 1  |
|     | 腱鞘切開術        | 4  |
| 手外科 | 手根管開放術       | 12 |
|     | 関節形成術        | 21 |
|     | 関節固定術        | 1  |
|     | 神経剥離術        | 7  |
|     | 神経移行術        | 2  |

| 分野  | 手術(術式)       | 件数  |
|-----|--------------|-----|
| 手外科 | 腱縫合術         | 4   |
|     | 腱移行術         | 1   |
|     | 腱剥離術         | 2   |
|     | 靱帯断裂形成手術     | 6   |
|     | ガングリオン摘出術    | 2   |
|     | デュブイットラン拘縮手術 | 1   |
| 外傷  | 骨折観血の手術      | 233 |
|     | 関節内骨折観血の手術   | 21  |
|     | 骨折経皮的鋼線刺入固定術 | 13  |
|     | 一時的創外固定骨折治療術 | 6   |

| 分野  | 手術(術式)          | 件数  |
|-----|-----------------|-----|
| 外傷  | 関節鏡視下関節内骨折観血の手術 | 2   |
|     | 関節脱臼観血の整復術      | 2   |
|     | アキレス腱断裂手術       | 2   |
|     | 偽関節手術           | 3   |
| その他 | 四肢軟部腫瘍摘出術       | 6   |
|     | 化膿性又は結核性関節炎掻爬術  | 7   |
|     | 脊椎骨組織採取術        | 2   |
|     | 骨内異物除去術         | 93  |
|     | 上記以外            | 30  |
| 合計  |                 | 580 |

## スタッフ紹介



副院長  
おかべ さとし  
岡部 聡



整形外科主任部長  
リハビリテーション科主任部長  
めぬき くにたか  
目黒 邦隆



整形外科部長  
くりのまる なおあき  
栗之丸 直朗



整形外科部長  
おち のぶあき  
越智 宣彰



整形外科副部長  
とよしま たかまさ  
豊島 嵩正

## 診療科の紹介

当院形成外科は、北九州市の形成外科としては最も早い昭和50年に開設され、顔面、四肢をはじめとした体表面の形態異常を整容的、機能的に改善する治療を行っています。

常勤医は4名(そのうち形成外科専門医3名)で診療を行っています。

当科では形成外科全般にわたる診療を行っています。とりわけ口唇口蓋治療においては症例数が多く、県外からも患者さんが来られます。また、当院には救命救急センターがあるため、顔面骨骨折を含む顔面外傷や、切断指再接合等の手の外傷、熱傷等を数多く担当しています。緊急を要する外傷などの場合は、平日時間外や休日でも対応しております。

他施設から紹介をいただくことが多い疾患としては、各種皮膚腫瘍、褥瘡、難治性潰瘍などがあげられます。

## 診療科の特徴

2020年よりVbeam II レーザーを導入し、毛細血管奇形(単純性血管腫)、乳児血管腫(莓状血管腫)、毛細血管拡張症といった皮膚良性血管病変の治療が可能となりました。小児科による内服治療との連携も行っています。小児、成人を問わず治療ができますので、お問い合わせください。

口唇口蓋裂は、乳幼児期から青年期まで、各成長段階に必要な手術や治療を行ってきていますが、中高年の患者さんで旧来の手術法による変形が残っている方に、現在の新しい手術方法で整容的機能的な修正を行ない、長年の悩みを解消する効果が得られています。他院で手術を受けている方でも結構です。

## 取り扱う主な対象疾患

### ■表在性先天異常

口唇口蓋裂、副耳、埋没耳などの顔面、多指症、合指症などの四肢、臍ヘルニアなどの体幹部の表在性先天奇形に対する治療を行っています。

### ■皮膚、皮下、軟部腫瘍(良性、悪性)

皮膚腫瘍、皮下腫瘍、軟部腫瘍(良性、悪性)に対して手術やレーザーを用いた治療を行います。組織欠損のサイズや部位により、必要に応じて再建手術を行うことがあります。

### ■顔面、手の外傷

顔面の皮膚、軟部組織損傷、骨折に対する処置、手術を行っています。また手指の外傷(骨折、血管、神経、腱損傷)に対する外科的処置、再建手術を行っています。また外傷や熱傷によって生じた傷跡や瘢痕拘縮に対して手術等の治療を行うことで整容的、機能的に改善します。

### ■熱傷

小児を含めた熱傷患者に対して加療を行っています。軟膏や創傷被覆材を用いた保存的加療や、必要に応じて手術治療(植皮術等)を行います。

### ■難治性潰瘍

糖尿病患者の足潰瘍や下肢の虚血による潰瘍、静脈の機能不全によっておこる、うっ滞性皮膚潰瘍に対して治療を行っています。また褥瘡に対しても、軟膏療法、持続陰圧吸引療法を含めた保存的加療、皮弁手術を含めた外科的治療を行っています。

### ■その他

足趾の爪が食い込む陥入爪、加齢により目が開きにくくなる眼瞼下垂の治療を行っています。また、Qスイッチルビーレーザーによる色素斑の治療、炭酸ガスレーザーや高周波ラジオ波メスを用いた小手術を行っています。腋窩多汗症や、まぶたがひきつる眼瞼痙攣、顔の片側がびくびくする顔面けいれんに対してボツリヌス毒素を用いた治療を行っています。匂いが問題となる腋臭症(わきが)に対しては手術を行います。

# 形成外科 ②

## 令和3年診療実績(令和3年1月1日～12月31日)

|           |                |
|-----------|----------------|
| 形成外科新患者数  | 795名           |
| 形成外科入院患者数 | 364名(延べ人数ではない) |

|          |      |           |      |            |
|----------|------|-----------|------|------------|
| 形成外科手術件数 | 入院手術 | 全身麻酔      | 281件 | (合計462件)   |
|          |      | 腰麻・伝達麻酔   | 32件  |            |
|          |      | 局所麻酔・その他* | 149件 |            |
|          | 外来手術 | 全身麻酔      | 2件   | (合計1,010件) |
|          |      | 腰麻・伝達麻酔   | 32件  |            |
|          |      | 局所麻酔・その他* | 976件 |            |

\*その他には無麻酔や分類不明を入れる

| 手術内容区分           |         |         |          |         |         |          |       |
|------------------|---------|---------|----------|---------|---------|----------|-------|
| 区 分              | 入 院 手 術 |         |          | 外 来 手 術 |         |          | 計     |
|                  | 全身麻酔    | 腰麻・伝達麻酔 | 局所麻酔・その他 | 全身麻酔    | 腰麻・伝達麻酔 | 局所麻酔・その他 |       |
| I. 外傷            | 56      | 21      | 66       |         | 29      | 687      | 859   |
| II. 先天異常         | 120     |         | 5        |         |         | 5        | 130   |
| III. 腫瘍          | 88      | 2       | 34       | 2       |         | 242      | 368   |
| IV. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド | 3       | 1       | 4        |         |         | 7        | 15    |
| V. 難治性潰瘍         | 1       | 3       | 9        |         |         | 9        | 22    |
| VI. 炎症・変性疾患      | 12      | 5       | 21       |         | 3       | 26       | 67    |
| VII. 美容(手術)      |         |         |          |         |         |          | 0     |
| VIII. その他        | 1       |         | 10       |         |         |          | 11    |
| 大分類計             | 281     | 32      | 149      | 2       | 32      | 976      | 1,472 |

## スタッフ紹介



統括部長  
形成外科主任部長  
たさき ゆきひろ  
田崎 幸博



形成外科部長  
そう みやび  
宗 雅



形成外科副部長  
いまち けんぞう  
井町 賢三



形成外科  
むらやま まゆこ  
村山 真由子

## 診療科の紹介

外来は呼吸器・消化器・神経・腎臓・甲状腺・膠原病・一般内科外来を設置しています。また、できる限り救急患者の受け入れを行なっています。これからも、地域との連携を深め質の高い医療を提供できるようスタッフ一同努力いたします。

## 診療科の特徴

### 主な検査・治療

#### <気管支鏡検査>

気管・気管支病変及び肺内病変に対しての気管支鏡検査を行っています。ほぼ全例鎮静薬の投与下に検査を行うことによって苦痛をできる限り与えないように心がけています。原則1泊2日の入院で検査を行っています。

主に腫瘍性病変に対しての経気管支肺生検・擦過細胞診、びまん性肺疾患に対しての気管支肺胞洗浄検査などを行っています。また適応症例に対しての気管支充填剤(EWS)の留置なども行っており幅広い疾患に対応しています。オリンパス社製の最新ビデオスコープ(290シリーズ)及び超音波システム(ガイドシース併用気管支内腔超音波断層法)が導入されており優れた診断精度での検査が提供できるよう努めています。

2019年末より新たにコンベックス走査式超音波気管支鏡(BF-UC290F)を導入したことにより縦隔リンパ節を含めた気管支周辺組織の超音波気管支鏡下吸引針生検(EBUS-TBNA)が実施可能となり、気管支鏡検査における適応疾患がさらに拡大しています。

#### <局所麻酔下胸腔鏡検査>

一般的な胸水検査では診断をつけることが出来ない胸水に対して局所麻酔下での胸腔鏡検査を施行しています。胸腔内の観察及び壁側胸膜の生検・細胞診を行うことにより原因診断を行っています。主に癌性胸膜炎・悪性胸膜中皮腫・結核性胸膜炎などの診断に有用です。

#### <気管支熱形成術(気管支サーモプラスティ)>

重症気管支喘息の治療を目的とした気管支鏡下の手技です。高用量の吸入ステロイド薬及び長時間作用型 $\beta$ 2刺激薬の投与下でも喘息症状がコントロール困難な重症患者に対して症状緩和を目的として行います。

気管支鏡を通して電極付きカテーテルを気管支内に誘導し、高周波により気管支を65度に温めます。気管支全体を3つのブロックに分けて3週間以上の間隔を空けて計3回の入院治療により処置を行います。加熱処置により気管支平滑筋量を減少させ気管支の収縮を抑制することで気管支喘息発作が減少するとされています。少なくとも5年間の治療効果の持続が期待できます。

#### <終夜睡眠ポリグラフ検査>

毎週水曜日に1泊2日の個室入院により終夜睡眠ポリグラフ検査を行っています。睡眠時無呼吸などの睡眠障害に対する精密検査を行います。検査目的の紹介は内科外来にて随時受け付けています。

#### <腹部超音波>

月曜日に、腹部エコー全般、体表エコー(頸部耳鼻科領域、甲状腺・副甲状腺、体表皮膚科領域)を行っています。非侵襲的な検査の代表です。小児から高齢の患者まで、状態の悪い場合も含めて検査できます。また、北九州の超音波検査の普及や高度化にも力を入れております。各医院でのスタッフ養成についてもお尋ね下さい。

#### <神経伝導速度・筋電図>

しびれや筋萎縮などの原因を調べるために、電気刺激を用いて神経のどこが障害されているかを調べることができます。手根管症候群や肘部管症候群などの末梢神経障害が良い適応です。また、筋肉に直接針を刺して筋萎縮の原因を調べる針筋電図もおこなっています。



## 取り扱う主な対象疾患

### 【呼吸器内科】

呼吸器内科は常勤医3名と非常勤医6名の計9名で診療しています。当院の救急病院としての特色を活かし、新型コロナウイルス感染症を含む呼吸器感染症・気管支喘息・COPD(慢性閉塞性肺疾患)・間質性肺炎を中心に急性呼吸不全及び慢性呼吸不全の急性増悪などの救急患者に対応しています。特に近年、重症気管支喘息に対しては生物学的製剤による治療を行うと共に、新たな治療法として保険収載された気管支熱形成術も行っております。北九州市内で導入している施設は当院のみです。

また慢性呼吸不全に対しての在宅酸素療法の導入に加えて、薬剤師・看護師・理学作業言語療法士・MSWを含めた多職種連携による外来・入院における呼吸器リハビリや、近年では呼吸器診療に欠かすことのできない吸入薬に対する患者指導も積極的に行っています。また睡眠時無呼吸症候群に対しての終夜睡眠ポリグラフ検査及びCPAP療法の導入にも対応しております。この様に当院では急性期から慢性期まで幅広い呼吸器診療を心がけています。

### 【消化器内科】

非常勤医7名にて消化器疾患の外来診療(月～金曜日)と、消化管内視鏡検査(主に下部消化管；水・木曜日午後)をおこなっています。下部消化管内視鏡検査は消化器外科の協力で行っています。

### 【甲状腺】

非常勤医師1名により、週1回月曜日にバセドウ病等の甲状腺疾患の外来診療をしています。

### 【脳神経内科】

常勤医1名で診療しています。外来は火・金の週2回おこなっています。中枢神経(脳・脊髄)から、末梢神経、筋肉に至るさまざまな病気を対象にしています。頭痛、しびれ、ふるえ、めまい、筋力低下などの診断・治療のほか、神経救急疾患(脳血管障害、脳炎、髄膜炎、ギランバレー症候群など)や、パーキンソン病をはじめとした神経難病についても診療に当たっています。

### 【腎臓内科】

常勤医1名で月、火、木の週3回腎臓内科の外来診療をしています。検診などで血尿や蛋白尿などの尿異常や、糖尿病性腎症、薬剤性腎障害、腎実質性高血圧、高尿酸血症など、腎臓病の保存期を中心に治療を行っています。当院では維持透析は行っておりませんので、末期腎不全に至った患者様は適切な医療機関へご紹介いたします。また、重症例や腎生検診断が必要な場合、産業医科大学腎臓内科と連携していますのでご紹介いたします。腎生検診断後の治療継続は、当院でも副腎皮質ホルモンや免疫抑制剤などによる治療が可能ですのでご紹介ください。

### 【膠原病】

膠原病内科はしばらく休診状態でしたが、令和4年4月より週1回金曜日の外来が再開いたしました。関節リウマチをはじめとした膠原病を広く診療しています。多系統領域にまたがる疾患ですので、当院の複数の専門科と協力しながら診療を行っています。重症例は、産業医大第一内科と連携して治療を行います。膠原病の病初期の判断は困難なことが多いのですが、この時期の治療の重要性も確認されています。疑わしい症例は、ご遠慮なくご紹介下さい。

## スタッフ紹介



内科主任部長

すえなが あきひと  
末永 章人



内科部長

もり ゆうすけ  
森 雄亮



内科副部長

かんだ ひでき  
神田 英樹



内科副部長

まなべ たいき  
真鍋 大樹



内科

みやざき みえこ  
宮崎 三枝子

## 診療科の紹介

当科では、すべての循環器疾患において「患者さんに科学的根拠に基づく質の高い最善の医療を安全に提供する」ことを第一とし診療を行っております。当院には救命救急センターが併設されており、24時間救急患者を受け入れる体制も整えております。北九州地域の患者さん・医療機関の先生方のニーズに応え、信頼を得られるよう努力をして参ります。

## 診療科の特徴

当科では、令和4年4月から常勤医2名、7月から1名が増員され合計3名（うち循環器専門医2名）の診療体制となり、一時対応が困難となっておりました狭心症や心筋梗塞、末梢血管に対するカテーテル検査・治療を再開しております。胸痛や労作時息切れなど、循環器疾患が疑われる患者さんがおられましたら、ご紹介賜りますようお願い申し上げます。

日本では心不全は75歳以上が7割超を占めており、超高齢社会の進行に伴い増加し続ける心不全（心不全パンデミックと呼ばれています）患者さんに対し、当院に併設された心不全センターにて生活習慣の見直し・改善や食事・運動療法、心臓保護を目的とした薬物療法、心臓リハビリテーションなど包括的な治療を行っております。また必要に応じて心肺運動負荷試験（CPX）で運動強度を評価し運動処方を行っています。このような包括的治療にも関わらず心不全患者さんは残念ながら約2、3割の方が1年以内に再入院する（怠薬や塩分過剰摂取等にて）ことも分かっており、急性期医療機関の当院だけで解決できる課題ではなく、今後心不全患者さんの診療のための地域医療連携と心臓リハビリテーションを積極的に進めて参りますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

## 取り扱う主な対象疾患

- 心不全（急性・慢性）
- 冠動脈疾患（狭心症、心筋梗塞）
- 心筋疾患（肥大型心筋症、拡張型心筋症、二次性心筋症（心アミロイドーシス、心サルコイドーシス、ファブリー病））
- 弁膜症（大動脈弁狭窄・閉鎖不全症、僧帽弁狭窄・閉鎖不全症）
- 不整脈（心房細動、徐脈性・頻脈性不整脈、期外収縮）
- 大動脈疾患（胸部・腹部大動脈瘤、大動脈解離）
- 末梢動・静脈疾患（閉塞性動脈硬化症、腎動脈狭窄症、深部静脈血栓症）
- 肺循環疾患（急性肺血栓塞栓症、慢性血栓塞栓性肺高血圧症）
- 高血圧症や脂質異常症

## スタッフ紹介



循環器内科主任部長

ただ ゆき  
津田 有輝



循環器内科部長

いわがき はれい  
岩垣 端礼



循環器内科副部長

なかむら けいこ  
中村 圭吾

# 小児総合医療センター ①

## はじめに

小児総合医療センターも新病院開院から4年目となりました。皆様の日頃のご指導と御高配により発展を重ねておりましたが、新型コロナウイルス感染症の流行により小児医療の大半を占めていた感染症は激減し様相は一変しました。

2022年度4月1日付けの北九州市立八幡病院 小児総合医療センターの新体制および外来診療体制は常勤医師および非常勤医師の充実と診療領域の拡張を図りました。

小児救急センターとして救急・集中治療部門の機能をこれまでどおり維持し、より専門性の高い医療と地域連携医療をさらに提供していく所存です。

更に昨今劣悪な環境で発見される子ども虐待やマルトリートメントの診療に対しても、当院では全国に先駆けて多機関での検証を確立し、法医学や福岡県警・検察・行政や児童相談所といった専門機関との連携を深め、24時間子どもの安全と安心を提供できる環境を整えています。成人への移行期となる小児・思春期・若年成人を持つ全てのご家族に寄りそう医療を目指して、今後もより真摯に向き合っていきたいと気持ちを新たにしております。

## 小児総合医療センターの診療体制

|                    |               |
|--------------------|---------------|
| 副院長／小児総合医療センター長    | 天本 正乃         |
| 小児総合医療センター         |               |
| ○総合診療科(小児科)主任部長    | 今村 徳夫 / 高野 健一 |
| ○血液・腫瘍科主任部長        | 安井 昌博         |
| ○神経科主任部長           | 天本 正乃         |
| 小児救急センター長(E R)     | 西山 和孝         |
| 小児総合医療センター外来(外来医長) | 富田 一郎         |
| 小児5A病棟(病棟医長)       | 八坂 龍広         |
| 小児5B病棟(病棟医長)       | 佐藤 哲司         |
| 小児集中治療室(室長)        | 小林 匡          |

## 施設認定

- 日本小児科学会 研修認定施設
- 日本小児血液・がん学会 小児血液・がん専門医研修施設
- 日本小児神経学会 小児神経専門医研修認定施設
- 福岡県児童虐待防止医療ネットワーク事業拠点病院

## 小児総合医療センター医師数

| 学会専門医資格認定名称等  | 資格保有者数 |
|---------------|--------|
| 小児科専門医        | 17名    |
| 認定小児科指導医      | 9名     |
| 救急専門医         | 4名     |
| 救急専門医・集中治療専門医 | 4名     |
| 小児血液がん学会専門医   | 2名     |
| 小児神経専門医       | 1名     |
| 腎臓専門医         | 1名     |
| 臨床遺伝専門医       | 1名     |
| 小児臨床心理士       | 2名     |
| 子ども療養支援士      | 1名     |
| 小児看護専門看護師     | 1名     |
| 小児救急看護認定看護師   | 3名     |

# 小児総合医療センター ②

## 外来診療のご案内

| 小児総合医療センター 専門分野別担当医師のご案内                      |                         |
|-----------------------------------------------|-------------------------|
| 連絡先 TEL: 093-662-6565(代表) / FAX: 093-662-1796 |                         |
| 専門別診療内容                                       | 担当医師等                   |
| 救急・搬送医療・集中治療                                  | 西山 和孝/小林 匡/福政 宏司/岡嶋 祥憲  |
| 感染症・予防接種・乳児健診                                 | 高野 健一/富田 一郎/富田 芳江/村上 知恵 |
| 血液・腫瘍・細胞移植医療                                  | 安井 昌博/稲垣 二郎/興枿 雅彦/佐藤 哲司 |
| 免疫・膠原病                                        | 佐藤 哲司/＊神蘭 淳司/＊西小森 隆太    |
| アレルギー(食物・喘息アトピー)                              | 沖 剛/小野 佳代 /中野珠奈         |
| 神経・てんかん                                       | 天本 正乃/松石 豊次郎/福井香織       |
| 神経発達症(発達障害)                                   | 村上 知恵                   |
| 児童精神                                          | ＊山口 若菜                  |
| 在宅医療支援                                        | 八坂 龍広/村上 知恵             |
| 心理カウンセリング                                     | 蠅木 聡子/今戸 江梨             |
| 循環器                                           | 富田 芳江/長嶺 伸治/＊龍手田 雄介     |
| 腎・代謝(糖尿病)                                     | 中野 慎也/＊田中 征治            |
| 内分泌                                           | 富田 一郎/＊荒木 俊介            |
| 夜尿症                                           | 今村 徳夫                   |
| 消化器・肝臓病・炎症性腸疾患                                | ＊水落 建輝                  |
| 家族と子どもの支援・虐待対応                                | 森吉 研輔/藤崎 徹/＊神蘭 淳司       |

＊非常勤医師

## スタッフ紹介



副院長  
小児総合医療センター長  
小児神経内科主任部長  
あまもと まさの  
天本 正乃



小児科主任部長  
いまむら のりお  
今村 徳夫



小児血液・腫瘍内科主任部長  
やすい まさひろ  
安井 昌博



小児科主任部長  
たかの けんいち  
高野 健一



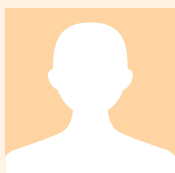
小児科部長  
いしばし しんさく  
石橋 紳作



小児科部長  
やまね ひろまさ  
山根 浩昌



小児血液・腫瘍内科部長  
さとう てつじ  
佐藤 哲司



小児血液・腫瘍内科部長  
いながき じろう  
稲垣 二郎



小児血液・腫瘍内科部長  
こうき まさひこ  
興枿 雅彦



小児科部長  
にしやま かずたか  
西山 和孝



小児科部長  
とみた よしえ  
富田 芳江



小児科部長  
とみた いちろう  
富田 一郎



小児科部長  
こばやし まさし  
小林 匡



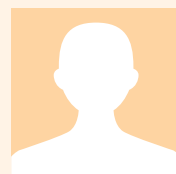
小児神経内科部長  
やさか たつひろ  
八坂 龍広



小児科部長  
おの ゆうすけ  
小野 友輔



小児科部長  
おの かよ  
小野 佳代



小児科部長  
ふくまさ ひろし  
福政 宏司



小児科部長  
おかはた よしのり  
岡嶋 祥憲

# 小児総合医療センター ③

## 豊富な関連・連携病院・基幹病院群 (専攻医プログラム連携病院を記載)

|          |                                                     |
|----------|-----------------------------------------------------|
| 大学小児科医局  | 産業医科大学・久留米大学・福岡大学・愛媛大学                              |
| 近隣総合病院   | 北九州市立医療センター<br>北九州市立療育センター JCHO九州病院                 |
| 兵庫県      | 神戸市立中央市民病院                                          |
| 千葉県      | 松戸市立医療センター・千葉市立海浜病院                                 |
| 北海道      | 手稲啓仁会病院                                             |
| 初期研修連携病院 | 産業医科大学病院・戸畑共立病院・製鉄記念八幡病院<br>大手町健和会病院・福岡新水巻病院・福岡和白病院 |



市川光太郎 名誉院長の書

## スタッフ紹介



小児科部長

ながみね しんじ  
長嶺 伸治



小児神経内科部長

ふくい かおり  
福井 香織



小児科部長

おき たけし  
沖 剛



小児血液・腫瘍内科部長

まついし としや  
松石 登志哉



小児科部長

なかの しんや  
中野 慎也



小児科部長

なかの たまな  
中野 球菜



小児科部長

ふじさき とおる  
藤崎 徹



小児科部長

もりよし けんすけ  
森吉 研輔



小児神経内科

むらかみ ちえ  
村上 知恵



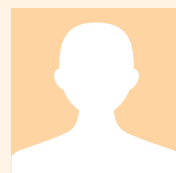
小児科

まつなが ちえ  
松永 千恵



小児科

ささき あつし  
佐々木 淳



小児科

やまが ゆりえ  
山鹿 友里絵



小児科

ほんま かずき  
本間 一樹



小児科

いちむら まさる  
市村 将



小児科

ふじかわ こうしろう  
藤川 紘志朗



小児科

にいみ しんご  
新居見 真吾



小児科

たけい ふみや  
竹井 文哉



小児科

やなぎはら ちあき  
柳原 千秋



# 小児血液・腫瘍内科

## 診療科の紹介(小児がんについて)

小児がんの治療成績は、化学療法(抗がん剤、免疫抑制剤、生物学的製剤)、外科的手術、放射線療法からなる集学的治療の発展に伴って、過去40年間に劇的に向上し、現在では約80%の患者さんが治癒するようになりました。その一方で、標準治療では、治癒の得られない再発・難治性の患者さんも一定の割合で存在します。このため、標準リスクの患者さんには安全で確実な治療が、難治性の患者さんには治癒の可能性を少しでも上げるために、造血細胞移植など専門性の高い治療が求められています。

## 診療科の特徴

当院小児科では、2018年4月に小児がんを専門的に診療する、小児血液腫瘍・造血細胞移植センターを立ち上げ、2021年4月より、小児血液・腫瘍内科を標榜しました。

当科は日本小児血液・がん学会および日本血液学会の専門医研修施設として認定されており、同学会や日本造血・免疫細胞療法学会(旧:日本造血細胞移植学会)の専門医や指導医資格をもつ3名の小児科医師を中心に診療を行っています。また、北九州市では2施設しかない日本輸血・細胞治療学会の認定医制度指定施設のひとつとして認定されています。

小児がんは致死性の疾患であると同時に希少疾患であり、治療法に関しては標準治療として確立されている治療法や患者さんへの地益が大きいと考えられる臨床試験での治療など、疾患の種類や病期によって最も適切な治療法を選択しています。上述のような再発・難治性の患者さんに対しては、適応を慎重に判断したうえで造血細胞移植を行っています。

小児がんの患者さんは、抗がん剤や免疫抑制剤の治療により容易に免疫不全状態に陥り、重要感染症を発症するリスクを負っていますが、当センターでは小児科病棟内の10床の個室からなる清浄度の高いprotective environment(防護環境、慣例的にクリーンエリアと呼んでいます)内で化学療法を行っています。そのうち2床は、白血球数や免疫機能が極度に低下する造血細胞移植に対応した規格になっています。

小児がんの治療は長期にわたり、様々な身体的・精神的苦痛や社会的困難が伴います。当科では、患者さんご家族の負担を少しでも軽減できるよう、医師、看護師だけではなく薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、臨床工学士、管理栄養士、社会福祉士、保育士、臨床心理士、子ども療養支援士、院内学級講師、その他の多くのスタッフが協力してチーム医療を行っています。

## 取り扱う主な対象疾患

### ■血液腫瘍

急性リンパ性白血病、急性骨髄性白血病、慢性骨髄性白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫などに対する化学療法を行っています。

### ■その他の血液疾患

小児がんの他に、再生不良性貧血や溶血性貧血など「赤血球の異常」、好中球減少症など「白血球の異常」、血小板減少症など「血小板の異常」、「凝固因子の異常」といった、非腫瘍性血液疾患の診療を行っています。

### ■固形腫瘍

脳腫瘍以外の固形腫瘍に対する化学療法も行っています。より専門的な手術や放射線治療が必要な場合は、当院小児外科および関連診療科、診療協力施設と連携しながら治療を行っています。

## 診療実績

※小児血液腫瘍・造血細胞移植に関わる実績

2019年度は、14例の新規患者さんを含む19人の患者さんに化学療法を行いました。そのうち、3人の再発・難治性の白血病患者さんに血縁ドナーから末梢血幹細胞移植を行いました。

2021年度は、血縁ドナーの母親から HLA半合致骨髄移植を当院で初めて行いました。

| 年度     | 化学療法、免疫抑制療法、手術をおこなった新規診断症例                                               |
|--------|--------------------------------------------------------------------------|
| 2017年度 | 急性リンパ性白血病1例、急性骨髄性白血病2例                                                   |
| 2018年度 | 急性リンパ性白血病3例、悪性リンパ腫1例、再生不良性貧血1例                                           |
| 2019年度 | 急性リンパ性白血病8例、急性骨髄性白血病1例、固形腫瘍(腎芽腫・卵黄嚢腫瘍・未熟奇形腫)3例、ランゲルハンス細胞組織球症1例、再生不良性貧血1例 |
| 2020年度 | 急性リンパ性白血病1例、急性骨髄性白血病1例、固形腫瘍(神経芽腫・成熟奇形腫)2例                                |
| 2021年度 | 急性リンパ性白血病2例、固形腫瘍(胚芽性嚢腫・未熟奇形腫)2例、ランゲルハンス細胞組織球症1例、血友病A・B11例、フォン・ウィルブランド病4例 |

## スタッフ紹介



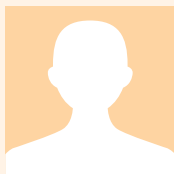
小児血液・腫瘍内科主任部長

やすい まさひろ  
安井 昌博



小児血液・腫瘍内科部長

さとう てつじ  
佐藤 哲司



小児血液・腫瘍内科部長

いなぎ じゅろう  
稲垣 二郎



小児血液・腫瘍内科部長

こうき まさひこ  
興杣 雅彦



小児血液・腫瘍内科部長

まつい としや  
松石 登志哉

# 小児神経内科

## ■ 取り扱う主な対象疾患

小児神経科内科は小児科領域におけるてんかんを始めとする発作性疾患、筋ジストロフィーなどの筋疾患、脳炎・脳症などの神経感染症、更に昨今は発達遅滞や学習障害など発達障害の分野に大きな活動の場が広がっています。また医療の発展に伴い救命率が上昇した結果在宅ケアを必要とする小児も増加し在宅支援も当診療科の重要な分野です。

さらに、今年度からは先天代謝異常を得意とする臨床遺伝専門医資格を持つ医師も仲間に加わり、神経疾患のみならずあらゆる遺伝性疾患の診断及び治療、カウンセリングを行うことが可能となりました。

## ■ 取り扱う主な疾患

当院の要である小児救急における患者搬送数が最も多いのはけいれんです。年間300件近い搬入数のうち単純な熱性けいれんから神経感染症の症例数は豊富です。てんかん発作の初回けいれんである症例も多く紹介患者を含めると新規てんかん患者は年間50～60名います。

今後は、てんかん診療における地域の基幹病院となれるよう患者数を増やし遺伝子診断、ケトン食治療、てんかん外科へのスムーズな移行などあらたな取り組みを行う予定としています。

神経筋疾患である脊髄性筋萎縮症におけるスピラザ治療はもとより、今後はゾリゲンスマ治療も行える準備が整い適応患者には新規の治療薬を導入する予定です。また今年度より遺伝カウンセリングを行うことが可能となり、その分野でも適切な遺伝子診断およびカウンセリングをおこなっています。更に社会問題となっている発達障害の患者数は著しく増加しており不登校、神経性食不振症、学習障害、引きこもりなど小児精神科医の育成は急務です。産業医科大学精神科との合同カンファランスも開始し、より効果的な治療の確立を目指す必要があります。

治療成績の向上に伴い在宅ケアを必要とする患者も年々増加し他職種との連携を更に深め地域のニーズに特化し患者家族の負担軽減、QOLを第1に考える在宅支援チームを結成し長い支援を継続できるシステム作りは必須であと考えています。小児神経内科は小児神経専門医認定施設として豊富な症例数をもって小児専門医の育成に取り組み多くの小児専門医を輩出することを目標としています。

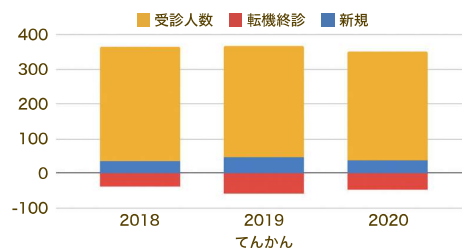
## ■ 診療科の特徴・取り組み

- 発達障害(精神遅滞・自閉症・ADHD・学習障害など)
- 発作性疾患(主にてんかん、熱性けいれんなど)
- 先天代謝異常・染色体異常
- 脳性麻痺
- 中枢神経感染症(脳炎・脳症・髄膜炎など)
- 筋疾患(ジストロフィー・脊髄性筋萎縮症他)
- 頭部外傷
- 脊髄疾患・末梢神経疾患
- 脳血管障害

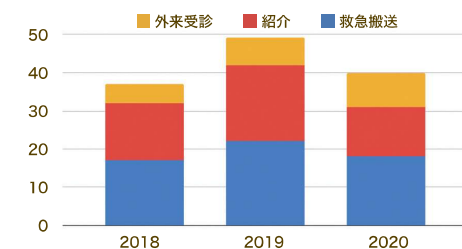
## ■ 小児神経内科 診療実績

治験：異染性白質ジストロフィー(兄弟例)

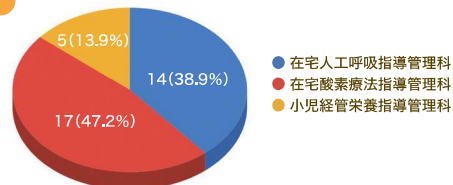
### 外来受診数(てんかん)



### 新規てんかん患者受診内訳



### 在宅



## ■ スタッフ紹介



副院長  
小児総合医療センター長  
小児神経内科主任部長  
あまもと まさの  
天本 正乃



小児神経内科部長  
やさか たつひろ  
八坂 龍広



小児神経内科部長  
ふくい かおり  
福井 香織



小児神経内科  
むらかみ ちえ  
村上 知恵

# 泌尿器科

## 診療科の紹介

泌尿器科悪性腫瘍、良性疾患に対する診療を行っています。とくに悪性腫瘍に対する手術治療・全身癌化学療法では、新しい知見を取り入れ、最新の治療が行えるよう心がけております。また、罹患頻度の高い尿路結石に対しては、迅速に手術治療を行い、できるだけ早く患者様の苦痛を和らげるよう努めています。当院の特色である小児診療も積極的にしており、小児泌尿器科領域での外科手術を施行しています。泌尿器科救急疾患にも24時間迅速に対応します。

2019年4月より、常勤の泌尿器科医が1名増員となり、2名体制となりました。より柔軟な対応が可能となり、手術件数も順調に増加しています。種々の疾患に対し、当院で診断・治療・フォローアップまで完結できるように努め、地域住民の方々のニーズに応えられるような医療を展開してまいります。

## 診療科の特徴

### ■内視鏡的デフラックス注入療法

膀胱尿管逆流症に対する新しい手術として2021年6月より開始しました。まだ5例ほどですが、全例良好な治療経過です。従来の開腹手術と比較し低侵襲な手術であり、患者様の満足度も高いと考えます。

### ■尿路結石

ESWL(体外衝撃波結石破碎術)とTUL(経尿道的結石碎石術)を積極的に行っています。できるだけお待たせすることなく、迅速に行うよう心がけています。

### ■前立腺癌骨転移のゾーフィゴ治療

前立腺癌骨転移に対する放射線医薬品治療(223-Ra(商品名:ゾーフィゴ))を行っています。福岡県内でも上位の症例数を経験しております。

## 取り扱う主な対象疾患

### ■泌尿器科悪性疾患

腎癌、膀胱癌、腎盂尿管癌、前立腺癌、精巣腫瘍、副腎癌、等

### ■泌尿器科良性疾患

尿路結石症、前立腺肥大症、過活動膀胱、尿路感染症、等

### ■小児泌尿器疾患

停留精巣、先天性水腎症、膀胱尿管逆流症、包茎、等

### ■泌尿器救急疾患

尿路外傷、尿管結石嵌頓、腎後性腎不全、尿閉・膀胱タンポナーデ、精巣捻転、嵌頓包茎、等

## 令和3年度 泌尿器科診療実績

|                               |       |
|-------------------------------|-------|
| 外来患者数                         | 3803人 |
| 入院患者数                         | 252人  |
| (平均入院患者数 9.1人/日、平均在院日数 12.1日) |       |
| 手術件数                          | 190件  |
| ESWL件数                        | 125例  |

## スタッフ紹介



泌尿器科主任部長

まつもと ひろあき  
松本 博臣



泌尿器科副部長

おくむら ゆたか  
奥村 豊

## 診療科の紹介

月曜から金曜までの週5回、午前8時30分から午前11時までが受付時間となります。

紹介患者さんにつきましては、月火金は鶴田、水は村尾、木は古賀(非常勤)が担当いたします(変更になる場合があります)。可能でしたら事前にFaxや電話での予約をお願いいたします。

## 診療科の特徴

皮膚科で大切なのは、「視診(ししん：皮膚を観察し性状を把握する診察方法です。)」をしっかりと行うことだと考えています。当科では、基本となる問診および視診を十分に行之、必要に応じて皮膚生検(ひふせいけん：病変の一部を採取し病理検査を行う)や血液検査、画像検査などの各種検査を提案し、なるべく正確な診断が得られるように努力しています。また必要に応じて他科の医師と緊密に連携し、質の高い医療を行っていくことを心がけています。

2021年から乾癬の生物学的製剤使用承認施設となり、昨年は北九州市内外から多くの乾癬患者さんをご紹介いただきました。一人一人の乾癬の重症度、生活への影響を考慮して生物学的製剤を含めた治療を提案しています。2022年6月には最新型の限局型光線機器も導入いたしました。

## 取り扱う主な対象疾患

皮膚疾患全般を取り扱っています。水虫、イボ、ニキビをはじめ、重症の乾癬やアトピー性皮膚炎、蕁麻疹に対する生物学的製剤治療、皮膚腫瘍の診断・局所麻酔手術も行っています。

## 令和3年度 皮膚科診療実績

|                              |       |
|------------------------------|-------|
| 局所麻酔手術件数(皮膚生検を含む)            | 139症例 |
| デュピクセント®(アトピー性皮膚炎に対する生物学的製剤) | 38人   |
| ゾレア®(蕁麻疹に対する生物学的製剤)          | 19人   |
| 乾癬に対する生物学的製剤                 | 28人   |

## スタッフ紹介



皮膚科主任部長

つるた のりこ  
鶴田 紀子



皮膚科部長

むらお れい  
村尾 玲

## 診療科の紹介

八幡病院精神科では広く精神科一般の病気を診ています。妄想や幻覚で苦しんでいる人や気持ちが落ち込んでつらい人、職場の悩みを抱えて体調不良に悩む人、夜眠れなくて困っている人等、症状やその程度は様々です。

病名としては統合失調症、うつ病、不安症、不眠症、適応障害、認知症などが主ですが、一口に精神科の病気といってもひとりひとり症状も治療法も違ってきます。したがってその人に一番良い治療法を目指しています。

また、外来患者さんだけでなく、当病院に入院中の他科患者さんの心のケアにもあたっています。午前中の精神科外来、予約制の物忘れ外来、午後からの他科入院患者さんの精神面のケア(コンサルテーション・リエゾン精神医学)を主な業務としています。なお、当院には精神科の病床はありませんので、入院が必要な場合は他の精神科病院を紹介しています。

外来を受信される方の人数は日によってばらつきがありますので、場合によっては思いがけずお待たせすることもありますのでご了承ください。

## 診療科の特徴

令和2年6月より「もの忘れ外来」を開設しました。当科での心理検査と放射線科の画像検査をもとに、早期に認知症の診断・治療ができるよう努めています。下記に認知症の画像診断を紹介しています。

### 【VSRAD検査】

MRI検査です。早期アルツハイマー病では、脳萎縮が海馬で著明であるため、脳全体と海馬の萎縮の程度を一定値(ボクセル値)へ変換した後、健常人のデータベースを対照として解析することで、海馬領域が特に障害されていないかを判定します。身体的侵襲なしに比較的手軽にできるようになりました。早期アルツハイマー型認知症の診断に役立ちます。

### 【脳血流シンチ検査】

半減期の短い放射線同位元素で標識した薬剤を静脈注射して行う検査です。脳の血流分布の異常を調べることでMRIだけでは判断できない認知症の鑑別に役立ちます。

### 【ダクトスキャン検査】

検査薬を静脈注射後撮像し脳内のドーパミン神経の異常を評価します。レビー小体型認知症やパーキンソン病の診断に威力を発揮します。

## 取り扱う主な対象疾患

統合失調症、うつ病、双極性障害、不安症、不眠症、適応障害、認知症など

## 令和3年度 診療実績

|                         |        |
|-------------------------|--------|
| 初診患者数                   | 125名   |
| 再診患者数                   | 2,808名 |
| 入院患者のコンサルテーション・リエゾン精神医学 | 609名   |
| 紹介患者数                   | 64名    |
| 逆紹介患者数                  | 43名    |

## スタッフ紹介



精神科主任部長

しらいし やすこ  
白石 康子



## 診療科の紹介

眼科医一人、視能訓練士一人体制であり、患者さんにはご迷惑をおかけすることもあります、一人ひとりの患者さんと大事に接するようにしています。患者さんのことをよく把握している三人の看護師が交替で、また専属の医療クラークも在籍しているので、良い診療体制を構築しています。

まだ、コロナの感染はおさまりませんが、感染対策を徹底的に実施し、診療を行っています。

## 診療科の特徴

スタッフは少人数ですが、丁寧な診療を心がけています。全身疾患をお持ちの方も内科や外科に相談しながら、安全に手術を施行する事が可能です。

手術は入院で施行しており、原則、火曜日は終日と水曜日の午後に行っています。

■白内障手術は1泊2日から3泊4日の入院、

■硝子体手術は4泊5日から7泊8日の入院

## 取り扱う主な対象疾患

■白内障

■緑内障

■糖尿病網膜症

■その他の眼底疾患

■ステロイド治療中の小児患者

■外傷による眼窩底骨折による眼球運動障害や眼底疾患(他科から関連によるもの)

## 令和3年度 診療実績

|                                   |      |
|-----------------------------------|------|
| 白内障手術                             | 108件 |
| 硝子体手術                             | 8件   |
| (増殖糖尿病網膜症、網膜前膜、眼内レンズ落下、前部硝子体切除など) |      |

## スタッフ紹介



眼科主任部長

いたや よしこ  
板家 佳子

## 診療科の紹介

婦人科は医師1名、非常勤1名体制で診療にあたっています。専門性を生かした外来診療には特に力を入れております。幼児期、思春期から性成熟期を経て、更年期、老年期までのすべての女性の一生のヘルスケアを行っています。

## 診療科の特徴

### ■婦人科内分泌および女性のヘルスケア

原発性及び続発性無月経、月経不順や過多月経、月経困難症、月経前症候群の診断と治療、ならびに更年期、老年期女性のヘルスケアを行います。月経困難症や過多月経に対しては最適なホルモン療法やホルモン含有子宮内器具による治療を積極的に行っています。また早発卵巢不全の治療についても十分な臨床経験があります。

### ■不妊症の診断と治療

不妊症に対する原因検査ならびに一般不妊治療を行っています。子宮卵管造影検査も行えます。生殖補助医療（人工授精、体外受精・胚移植）は行っていません。

### ■子宮頸部異形成に対する治療

子宮頸部異形成に対して侵襲の少ないレーザー蒸散術を行っています。

## 取り扱う主な対象疾患

- 無月経
- 子宮内膜症の診断と薬物療法
- 子宮がん検診
- 性感染症の診断と治療、性虐待、性被害
- 子宮頸部異形成の診断および円錐切除術（レーザー蒸散を含む）
- 骨盤臓器脱の非観血的治療（ペッサリーリングによる治療）
- 更年期障害
- 月経周期の異常、排卵障害の原因精査とホルモン療法
- 月経困難症（月経痛）の治療
- 不妊症、不育症の精査、治療
- 流産手術、人工妊娠中絶術
- 妊婦健診（当院での分娩は取り扱っていません）

## スタッフ紹介



婦人科主任部長

いまふく まさこ  
今福 雅子



婦人科

やまだ みき  
山田 美樹

# 耳鼻咽喉科

## 診療科の紹介

当科は外来診療と、手術及び急性疾患の治療を中心に入院加療を行っています。外来診療は、中耳炎、慢性副鼻腔炎等の一般的耳鼻咽喉科疾患の治療から、幼児難聴の診断、めまいの診断治療、頭頸部腫瘍(疑い)の検査と診断など、幅広く対応しています。

午前中は常勤医師一名体制で一般外来診療を行っています。午後は手術及び予約診で前庭機能検査(めまい検査)ファイバー等の検査、外来手術(ポリボトミー、鼓膜チュービング、生検等)、入院患者さんの診察等を行っています。咽喉頭や頸部等の急性炎症やめまい、突発性難聴、顔面神経麻痺等を入院の上、精査治療しています。また、声帯ポリープ、副鼻腔炎、扁桃炎等幅広く手術を行っています。

## 診療科の特徴

小児科領域に強い当院の特性を生かし、耳鼻科症状を有する小児については、小児科に加え耳鼻科でも診断、検査、治療、手術を行います。新生児スクリーニング検査で、聴力に問題があることが疑われる場合、ABR検査を含めた聴覚精密検査を行い、疑わしい場合は、早期に北九州市立総合療育センターなどの療育機関と連携し、早期の補聴器装用による聴覚の問題解決または軽減を図っています。

手術については、小児の反復性扁桃炎、睡眠時無呼吸症候群に対し、積極的に手術を行っております。また、当院形成外科で口唇口蓋裂の手術を行う際、合併する耳管機能不全、さらには慢性滲出性中耳炎に対し、乳児期の鼓膜チューブ挿入手術を行っています。言語発達の遅れが疑われる幼小児に対し、鼻咽腔ファイバーによる鼻咽腔閉鎖能の検査を行い、当院形成外科および療育センターとの連携で、適切な治療方針を決定しています。

## 取り扱う主な対象疾患

外来では中耳炎、副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、扁桃炎、咽頭炎などの耳鼻咽喉科一般疾患を取り扱っています。また、急性扁桃炎、扁桃周囲膿瘍、突発性難聴、内耳性めまい、顔面神経麻痺、声帯ポリープなどの入院管理が必要な耳鼻科疾患や耳鼻科手術に付随するものに対応しています。

## スタッフ紹介



耳鼻咽喉科主任部長

あそう ひろあき  
麻生 裕明

# 麻酔科

## 診療科の紹介

麻酔科は、日本麻酔科学会認定麻酔指導医/日本専門医機構麻酔科専門医の資格を持つ2名を含む3名の常勤医と非常勤の先生方、それに産業医科大学麻酔学教室の先生方にも協力をいただきながら、手術麻酔(周術期管理)と外来診療を行っています。

外来は、週2日(月・木 午前)に主としてペインクリニック(痛みの外来)として診療しています。

## 診療科の特徴

当院は、小児(乳幼児)から高齢者まで、積極的に救急医療に取り組んでいます。そのため私たち麻酔科も、24時間365日、緊急手術も含めたあらゆる症例に対して『より安全に。より快適に。』をモットーとし、手術に関わる様々なスタッフと協力して周術期管理に取り組んでいます。

新病院移転とともに整備された先進の各種医療機器やモニタリングシステムを駆使して安全な麻酔を担保するとともに、手術を受けられる方の快適性をも追求し、日々研鑽努力しています。すべての患者の皆さまに安心して手術をお受けいただくことが私たちの目標です。

麻酔業務以外にも各科と協力して疼痛管理や疾患治療、救急対応に関わっています。

## 取り扱う主な対象疾患

手術麻酔：狭義の局所麻酔症例を除く、全身麻酔、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔などによる手術のほぼ全例を麻酔科で担当させていただいています。

外来診療：帯状疱疹関連痛、三叉神経痛、頸肩腕痛、腰下肢痛、頭痛、遷延した術後痛、癌性疼痛、複合性局所疼痛症候群などの様々な痛みの治療に加え、痛みを伴わない末梢性顔面神経麻痺、突発性難聴、四肢の血行障害なども関係各科と協力して治療にあたっています。

## 診療実績

| 項目                               | 件数                      |
|----------------------------------|-------------------------|
| 手術室における全手術件数                     | 1,998                   |
| うち 麻酔科管理手術件数                     | 1,361                   |
| うち 麻酔科管理麻酔件数<br>*複数科による同時手術があるため | 1,330<br>(全身麻酔件数 1,291) |

手術室においては麻酔以外にも、重症患者に対するMAC(Monitored Anesthesia Care)や小児穿刺困難症例への薬剤髄腔内投与や中心静脈穿刺なども行いました。

## スタッフ紹介



麻酔科主任部長  
手術室室長  
集中治療室室長  
かないる まさひろ  
金色 正広



麻酔科部長  
さいとう まさたか  
齋藤 将隆



麻酔科部長  
さいとう みほ  
齋藤 美保

# 放射線科

## 診療科の紹介

当科は現在放射線診断専門医2名で画像診断とIVR(インターベンショナルラジオロジー)を中心に診療を行っています。

## 診療科の特徴

画像診断は、CT検査、MRI検査、RI検査、マンモグラフィなどを行っています。CT検査では、高速ヘリカルスキャンにより鮮明で詳細な画像が得られます。また、ワークステーションにより冠動脈や腎動脈の狭窄、脳動脈瘤や大動脈瘤、骨折等の3D画像を容易に得ることができます。RI検査では、SPECT画像を、MRI検査では、MR angi画像を得ることができます。CT、MRI、RIに関しては予約制で、他院からの依頼も受けています。

IVRは血管系では一般的なTAEやPTAから比較的稀なB-RTO、リザーバー留置術まで、非血管系では、PTGBD、PTCDや膿瘍ドレナージ、生検、胆道ステント挿入等を施行しています。

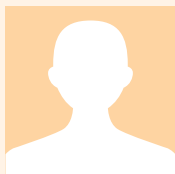
## 診療科の特徴・取組み

- 画像診断の対象となる疾患一般・・・腫瘍性疾患、炎症性疾患、先天性疾患、外傷など
- 肝細胞癌を始めとした悪性腫瘍に対する化学動注塞栓療法
- 乳癌など悪性腫瘍に対する画像ガイド下針生検

## 令和3年度 診療実績

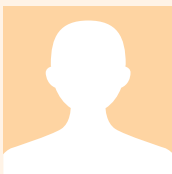
|               |        |
|---------------|--------|
| CT読影件数        | 8,823件 |
| MRI読影件数       | 2,850件 |
| RI読影件数        | 181件   |
| IVR(当科単独施行件数) | 33件    |

## スタッフ紹介



放射線科主任部長

いまふく よしひろ  
今福 義博



放射線科部長

こうざき しゅういち  
神崎 修一



## 診療科の紹介

救急科医師を中心に外科系、内科系の救命センター当番医師の協力を仰ぎながら、救急診療にあたっています。救急科専門医は5名在籍しており、普段の救急診療のみならず、救急救命士の指導、地域メディカルコントロール体制への関与、DMATなど災害医療に従事しています。

## 診療科の特徴

外科を中心に、整形外科、脳神経外科、形成外科とも連携しながら、北九州市西部地域のさまざまな外傷疾患に対応しています。免震構造の屋上ヘリポートを有し、北九州地域で発生した広域搬送事案において、消防防災ヘリやドクターヘリ、海上保安庁ヘリの受入を行っています。

北九州地域の災害基幹病院として、DMAT(災害医療派遣チーム)を複数有して、平時から有事に備えて活動しています。常設型救急ワークステーションにて医師が同乗し、直接救急救命士に指導を行っています。

## 取り扱う主な対象疾患

- 重症外傷、多発外傷
- 院外心肺停止
- 急性腹症

## スタッフ紹介



救急科主任部長  
呼吸器外科主任部長  
いのうえ まさお  
井上 征雄



救急科  
おかもと けんじ  
岡本 健司

# 臨床検査科

## 診療科の紹介

臨床検査科は2019年より正式な標榜科としてスタートいたしました。現在常勤医師1名、非常勤病理医師5名で運営し、診療内容は臨床検査に関わる各種診断、検査、管理、コンサルテーション業務を主体に活動を行っています。病理診断に関する業務は産業医科大学第2病理学講座の協力、生理機能検査は関連各診療科医師に協力いただいています。また、各種の検査結果に基づき院内の感染制御や医療安全業務に協力しています。

## 診療科の特徴

2018年の臨床検査に関わる医療法等の改正により、各種検査に精度管理者を配置し、正確な検査結果を保証するとともに検査機器の日々の的確な管理が求められるようになりました。現在の医療では、数年前と比べても疾患の細分化は進んでおり、治療はその細分化された診断に基づき行われます。検査機器もそれに併せて日々進歩し、正しい検査結果無くして正確な診断や治療は困難な時代を迎えつつあります。

救急医療の現場では迅速で正確な検査結果が必要とされる一方で、感染症、小児疾患、がん診療等においては慎重な取り扱いを必要とする遺伝子検査が必要となることがございます。常に病状や状況に合わせて、最適な医療を提供できるように各診療科と連携し、積極的に診療をサポートしています。

当科には日本臨床検査医学会及び日本病理学会専門医資格を有する常勤、非常勤医師が所属し、最新の知見を取り入れながら協力して診断検査業務に当たっています。

## 取り扱う主な対象疾患

- 一般、生化学、免疫・輸血、血液に関わる各種検体の検査、診断及び管理等
- 細菌、真菌及びウィルスに関わる同定、遺伝子解析検査等
- 病理診断及び検査（生検、手術材料に関する病理診断及び病理解剖等）
- 生理機能検査（心電図、超音波検査、肺機能検査、脳波検査等）
- 上記検査に関する診断、コンサルテーション

## 令和3年度 診療実績

| 検査項目                 | 検査実績(検査項目数) |
|----------------------|-------------|
| 一般検査                 | 160,068     |
| 生化学検査(含、免疫・輸血)       | 468,826     |
| 血液検査                 | 195,256     |
| 生理検査                 | 10,385      |
| 細菌検査(含、SARS-CoV-2検査) | 22,613      |
| 時間外緊急検査              | 216,325     |
| 病理検査(生検・術材)          | 1,373 (件数)  |
| 術中迅速検査               | 11 (件数)     |
| 病理検査(細胞診)            | 1,075 (件数)  |

## スタッフ紹介



臨床検査主任部長

きむら さとし  
木村 聡

## 診療科の紹介

歯科は完全予約制で診療を行っております。初診の患者さんも受診日・来院時間をあらかじめ予約して頂く必要があります。急患等がない限り、診療開始時間が大幅に遅れることはまずありません。歯科医師1名・歯科衛生士1名の体制で一日10名程度、平均約30分間の診療を行っています。病院内の歯科なので受診患者は70～80才台の高齢者・有病者が大半をしめております。

## 診療科の特徴

内科的疾患のある方の歯科治療や手術前後の口腔管理、入院中の口腔ケアを積極的に取り組んでいます。治療の際局所麻酔を頻繁に行いますが、注射は無痛麻酔を心掛けているので局所に表面麻酔薬の塗布、手技的に工夫を凝らした針の刺入をします。もちろん30G程度の細い針を使用しています。歯の基礎工事とでも言うべき根管治療には特に力を入れています。この治療が適切になされていないと数か月から数年後、根の先端部に炎症症状が出る事が度々あります。根療は時間もかかりますが、再治療にならないようにするため患者さんのご協力をお願いしたいと思います。また治療時に噛む場所がなくなったり外見的に問題が生ないように、仮歯や仮義歯等を早急に作製し、歯がない状態でお帰りいただく事のないよう心がけています。

## 取り扱う主な対象疾患

診療内容は一般の個人病院と同じです。口腔外科・矯正歯科・小児歯科は標榜しておりません。インプラント・顎関節症・歯科治療の経験のない子供さんは九州歯科大学附属病院等を紹介しています。その他保険外の診療となりますが、歯のホワイトニング(漂白)・白い歯の装着(ポーセレン・ジルコニアなど)の症例を扱っています。

## スタッフ紹介



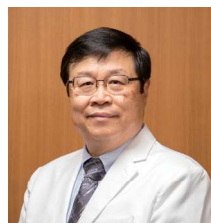
歯科主任部長

おかうえ あきまさ  
岡上 明正

## 専門医・ 資格認定等一覧

## 専門医・資格認定等一覧

### 外科



院長／消化器・肝臓病名誉センター長

**岡本 好司**

おかもと こうじ  
昭和60年卒

- ・日本外科学会専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会認定医・専門医・指導医・  
消化器がん外科治療認定医
- ・日本肝胆膵外科学会高度技能名誉指導医

- ・日本肝臓学会専門医・指導医
- ・日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
- ・日本消化器病学会専門医・指導医
- ・日本乳癌学会認定医
- ・日本腹部救急医学会腹部救急認定医・腹部救急教育医
- ・ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター認定医
- ・日本Acute Care Surgery学会認定外科医
- ・日本血栓止血学会血栓止血認定医
- ・日本外科感染症学会外科周術期感染管理認定医・外科周術期感染管理教育医



統括部長／救命救急センター長／地域医療連携室長

**木戸川 秀生**

きどがわ ひでお  
平成元年卒

- ・日本外科学会専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会  
専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医
- ・日本消化器内視鏡学会専門医・指導医

- ・日本救急医学会専門医
- ・日本消化器病学会専門医
- ・日本内視鏡外科学会技術認定医
- ・日本腹部救急医学会腹部救急認定医・腹部救急教育医
- ・ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター認定医

### 外科・救急科



呼吸器外科主任部長／救急科主任部長

**井上 征雄**

いのうえ まさお  
平成5年卒

- ・日本外科学会専門医
- ・日本呼吸器外科学会認定登録医
- ・日本救急医学会専門医

- ・社会医学系専門医協会専門医・指導医
- ・肺がんCT検診認定機構認定医
- ・日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィ読影認定医

### 外科



小児外科主任部長

**新山 新**

しんやま しん  
平成6年卒

- ・日本小児外科学会専門医
- ・日本外科学会専門医



消化器外科主任部長／消化器・肝臓病センター長

**野口 純也**

のぐち じゅんや  
平成7年卒

- ・日本外科学会専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会専門医・  
指導医・消化器がん外科治療認定医
- ・日本消化器内視鏡学会専門医
- ・日本消化器病学会専門医
- ・日本肝臓学会専門医



外科主任部長

**山吉 隆友**

やまよし たかと  
平成7年卒

- ・日本外科学会専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会専門医・  
指導医・消化器がん外科治療認定医
- ・日本消化器内視鏡学会専門医・指導医

- ・日本消化器病学会専門医
- ・日本外傷学会専門医
- ・日本がん治療認定医機構認定医
- ・日本外科感染症学会外科周術期感染管理認定医
- ・日本腹部救急医学会腹部救急認定医
- ・ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター認定医



外科部長

**上原 智仁**

うえはら ともひと  
平成14年卒

- ・日本外科学会外科専門医
- ・日本消化器外科学会専門医・  
指導医・消化器がん外科治療認定医
- ・日本消化器病学会専門医



外科部長

**又吉 信貴**

またよし のぶたか  
平成17年卒

- ・日本外科学会外科専門医



## 専門医・資格認定等一覧

### 外科



外科部長

**沖本 隆司**

おきもと たかし

平成23年卒

- ・日本外科学会専門医
- ・日本消化器病学会消化器病専門医
- ・日本がん治療認定医機構がん治療認定医



外科部長

**大坪 一浩**

おおつば かずひろ

平成25年卒



外科

**金野 剛**

こんの たけし

平成31年卒



参与

**伊藤 重彦**

いとう しげひこ

昭和53年卒

- ・日本外科学会専門医・指導医
- ・日本呼吸器外科学会指導医
- ・日本胸部外科学会指導医
- ・日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医

- ・日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
- ・日本救急医学会専門医
- ・日本腹部救急医学会腹部救急認定医・腹部救急暫定教育医
- ・日本消化器外科学会認定医
- ・日本外科感染症学会外科周術期感染管理認定医・外科周術期感染管理教育医
- ・ICD制度協議会
- ・インфекションコントロールドクター認定医

### 脳神経外科



脳神経外科主任部長

**宮岡 亮**

みやおか りょう

平成19年卒

- ・日本脳神経外科学会専門医・指導医
- ・日本脳卒中学会専門医・指導医

### 脳神経外科



脳神経外科部長

**宮地 裕士**

みやち ひろし

平成24年卒

- ・日本脳神経外科学会専門医

### 脳神経外科



脳神経外科副部長

**野口 祥平**

のぐち しょうへい

平成29年卒

### 整形外科／リハビリテーション科



副院長

**岡部 聡**

おかべ さとし

昭和59年卒

- ・日本整形外科学会専門医・認定スポーツ医
- ・日本リウマチ学会専門医

### 整形外科／リハビリテーション科



整形外科主任部長／リハビリテーション科主任部長

**目貫 邦隆**

めぬき くにたか

平成10年卒

- ・日本整形外科学会専門医・認定リウマチ医・認定スポーツ医
- ・日本手外科学会専門医
- ・日本骨粗鬆症学会認定医



整形外科部長

**栗之丸 直朗**

くりのまる なおあき

平成22年卒

- ・日本整形外科学会専門医・認定スポーツ医・運動器リハビリテーション医・認定脊椎脊髄病医
- ・日本骨粗鬆症学会認定医



整形外科部長

**越智 宣彰**

おち のぶあき

平成23年卒

- ・日本整形外科学会専門医



整形外科副部長

**豊島 嵩正**

とよしま たかまさ

平成29年卒

## 形成外科



統括部長／形成外科主任部長

**田崎 幸博**

たさき ゆきひろ

平成元年卒

- ・日本形成外科学会専門医・皮膚腫瘍外科分野指導医
- ・小児形成外科分野指導医
- ・日本熱傷学会専門医
- ・日本創傷外科学会専門医



形成外科部長

**宗 雅**

そう みやび

平成23年卒

- ・日本形成外科学会専門医

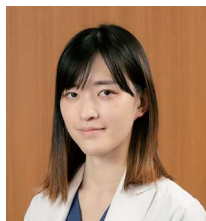


形成外科副部長

**井町 賢三**

いまち けんぞう

平成26年卒



形成外科

**村山 真由子**

むらやま まゆこ

平成31年卒

## 循環器内科



循環器内科主任部長

**津田 有輝**

つだ ゆき

平成5年卒

- ・日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医
- ・日本循環器学会専門医
- ・日本心血管インターベンション治療学会認定医
- ・日本医師会認定産業医



循環器内科部長

**岩垣 端礼**

いわがき はれい

平成23年卒

- ・日本内科学会認定内科医
- ・日本循環器学会専門医
- ・日本不整脈心電学会心電図検定1級



循環器内科副部長

**中村 圭吾**

なかむら けいご

平成28年卒



## 内科

内科主任部長

**末永 章人**

すえなが あきひと

昭和61年卒

- ・日本内科学会認定内科医・指導医・総合内科専門医
- ・日本神経学会専門医・指導医

## 内科



内科部長

**森 雄亮**

もり ゆうすけ

平成25年卒

- ・日本内科学会認定内科医・指導医・総合内科専門医
- ・日本呼吸器学会呼吸器専門医
- ・日本がん治療認定医機構認定医
- ・日本結核・非結核性抗酸菌症学会専門医・指導医

- ・肺がんCT検診認定機構認定医
- ・ICD制度協議会インфекションコントロールドクター認定医
- ・日本呼吸器内視鏡学会専門医



内科副部長

**神田 英樹**

かんだ ひでき

平成29年卒



内科副部長

**真鍋 大樹**

まなべ たいき

平成30年卒

## 専門医・資格認定等一覧

### 内科



内科

**宮崎 三枝子**

みやざき みえこ

平成14年卒

- ・日本内科学会認定内科医・指導医
- ・日本腎臓学会専門医
- ・日本透析医学会専門医

### 小児科



副院長／小児総合医療センター長／小児神経内科主任部長

**天本 正乃**

あまもと まさの

昭和60年卒

- ・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医

### 小児科



小児科主任部長

**今村 徳夫**

いまむら のりお

平成元年卒

- ・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医



小児血液・腫瘍内科主任部長

**安井 昌博**

やすい まさひろ

平成2年卒

- ・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医
- ・日本血液学会専門医・指導医
- ・日本小児血液・がん学会専門医・指導医
- ・日本造血細胞移植学会造血細胞移植認定医
- ・日本輸血・細胞治療学会認定医・細胞治療認定管理師



小児科主任部長

**高野 健一**

たかの けんいち

平成13年卒

- ・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医



小児科部長

**石橋 紳作**

いしばし しんさく

昭和63年卒



小児科部長

**山根 浩昌**

やまね ひろまさ

平成7年卒



小児血液・腫瘍内科部長

**佐藤 哲司**

さとう てつじ

平成7年卒

- ・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医
- ・日本血栓止血学会専門医



小児血液・腫瘍内科部長

**稲垣 二郎**

いながき じろう

平成9年卒

- ・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医
- ・日本血液学会専門医・指導医
- ・日本小児血液・がん学会専門医・指導医
- ・日本造血細胞移植学会造血細胞移植認定医



小児血液・腫瘍内科部長

**興枺 雅彦**

こうらき まさひこ

平成12年卒

- ・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医
- ・日本血液学会専門医
- ・日本がん治療認定医機構認定医
- ・日本造血細胞移植学会造血細胞移植認定医



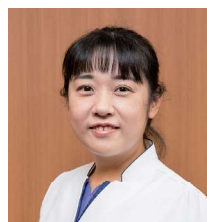
小児科部長／小児救急センター長

**西山 和孝**

にしやま かずたか

平成14年卒

- ・日本救急医学会専門医
- ・日本外科学会専門医
- ・日本集中治療学会認定集中治療専門医



小児科部長

**富田 芳江**

とみた よしえ

平成16年卒

- ・日本小児科学会小児科専門医

## 小児科



小児科部長

**富田 一郎**

とみた いちろう

平成16年卒

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医



小児科部長

**小林 匡**

こばやし まさし

平成16年卒

・日本小児科学会小児科専門医  
・日本救急医学会専門医



小児神経内科部長

**八坂 龍広**

やさか たつひろ

平成17年卒

・日本小児科学会小児科専門医



小児科部長

**小野 友輔**

おの ゆうすけ

平成17年卒

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医



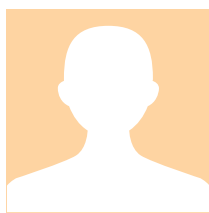
小児科部長

**小野 佳代**

おの かほ

平成17年卒

・日本小児科学会小児科専門医



小児科部長

**福政 宏司**

ふくまさ ひろし

平成17年卒

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医  
・日本集中治療医学会認定集中治療専門医



小児科部長

**岡 昌 祥憲**

おかはた よしのり

平成19年卒

・日本救急医学会専門医  
・日本集中治療学会認定集中治療専門医



小児科部長

**長嶺 伸治**

ながみね しんじ

平成14年卒



小児神経内科部長

**福井 香織**

ふくい かおり

平成18年卒

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医  
・日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医



小児科部長

**沖 剛**

おき たけし

平成22年卒

・日本小児科学会小児科専門医



小児血液・腫瘍内科部長

**松石 登志哉**

まつい としや

平成22年卒

・日本小児科学会小児科専門医



小児科部長

**中野 慎也**

なかの しんや

平成23年卒

・日本小児科学会小児科専門医  
・日本腎臓学会専門医



## 専門医・資格認定等一覧

### 小児科



小児科部長

**中野 珠菜**  
なかの たまな

平成23年卒

・日本小児科学会小児科専門医



小児科副部長

**藤崎 徹**  
ふじさき とおる

平成23年卒



小児科副部長

**森吉 研輔**  
もりよし けんすけ

平成25年卒



小児科

**松永 千恵**  
まつなが ちえ

平成21年卒

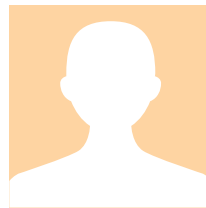
・日本内科学会総合内科専門医  
・日本腎臓学会専門医



小児科

**佐々木 淳**  
ささき あつし

平成30年卒



小児科

**山鹿 友里絵**  
やまが ゆりえ

平成30年卒



小児科

**本間 一樹**  
ほんま かずき

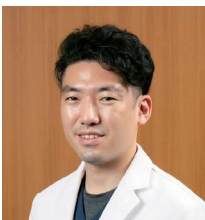
平成31年卒



小児科

**市村 将**  
いちむら まさる

平成29年卒



小児科

**藤川 紘志朗**  
ふじかわ こうしろう

平成31年卒



小児科

**新居見 真吾**  
にいみ しんご

平成30年卒



小児科

**竹井 文哉**  
たけい ふみや

令和2年卒



小児科

**柳原 千秋**  
やなぎはら ちあき

令和2年卒



## 小児科



小児神経内科

村上 知恵

むらかみ ちえ

平成3年卒

- ・日本小児科学会小児科専門医
- ・日本小児神経学会専門医

## 泌尿器科



泌尿器科主任部長

松本 博臣

まつもと ひろあき

平成13年卒

- ・日本泌尿器科学会専門医・指導医

## 泌尿器科



泌尿器科副部長

奥村 豊

おくむら ゆたか

平成30年卒

## 皮膚科



皮膚科主任部長

鶴田 紀子

つるた のりこ

平成17年卒

- ・日本皮膚科学会認定皮膚科専門医

## 皮膚科



皮膚科部長

村尾 玲

むらお れい

平成26年卒

## 精神科



精神科主任部長

白石 康子

しらいし やすこ

平成8年卒

- ・日本精神神経学会専門医・指導医

## 眼科



眼科主任部長

板家 佳子

いたや よしこ

昭和55年卒

- ・日本眼科学会専門医



婦人科主任部長

今福 雅子

いまふく まさこ

平成15年卒

- ・日本産科婦人科学会専門医
- ・日本がん治療認定医機構認定医
- ・日本医師会母体保護法指定医師

## 婦人科



婦人科

山田 美樹

やまだ みき

平成25年卒

## 耳鼻咽喉科



耳鼻咽喉科主任部長

麻生 裕明

あそう ひろあき

昭和59年卒

- ・日本耳鼻咽喉科学会専門医

## 麻酔科



麻酔科主任部長／手術室長／集中治療室長

金色 正広

かないり まさひろ

平成元年卒

- ・日本麻酔科学会専門医・指導医
- ・日本医療機器学会認定MEDIC
- ・厚生労働省麻酔科標榜医
- ・日本医師会認定産業医



麻酔科部長

齋藤 将隆

さいとう まさたか

平成6年卒

- ・日本麻酔科学会専門医・指導医
- ・日本集中治療医学会認定集中治療専門医
- ・厚生労働省麻酔科標榜医
- ・日本医師会認定産業医

## 専門医・資格認定等一覧

### 麻酔科



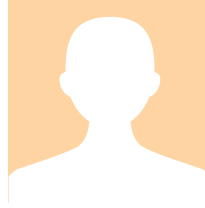
麻酔科部長

齋藤 美保

さいとう みほ  
平成8年卒

- ・日本麻酔科学会認定医
- ・厚生労働省麻酔科標榜医
- ・日本医師会認定産業医

### 放射線科



放射線科主任部長

今福 義博

いまふく よしひろ  
平成10年卒

- ・日本医学放射線学会  
放射線診断専門医
- ・日本乳がん検診精度管理中央機構  
検診マンモグラフィ読影認定医

### 放射線科



放射線科部長

神崎 修一

こうざき しゅういち  
昭和56年卒

- ・日本医学放射線学会  
放射線診断専門医
- ・日本IVR学会専門医・指導医
- ・日本超音波医学会指導医

- ・肺がんCT検診認定機構認定医
- ・日本消化器集団検診学会認定医

### 救急科



救急科

岡本 健司

おかもと けんじ  
平成31年卒

### 臨床検査課



臨床検査科主任部長

木村 聡

きむら さとし  
平成7年卒

- ・日本内科学会総合内科専門医
- ・日本循環器学会専門医
- ・日本臨床検査医学会臨床検査専門医・臨床検査管理医
- ・日本医師会認定産業医

### 歯科



歯科主任部長

岡上 明正

おかうえ あきまさ  
昭和58年卒

### 初期臨床研修医



山口 定信



曽我部 翔大



岡 雅之



樋口 太郎



有吉 理恵



福島 創



高瀬 耀一